# 唐土名勝圖會

京師

四



唐土名勝圖會第一集卷之四

目次

唐土名勝圖會　京師　外城　卷之四

# 外城

唐土名勝圖會
京師
外城
巻之四
外城總圖
城
内
北
正陽大街
永定門
天壇
六間房
東小市
金魚池
義園
左安門
西便門
東便門
育嬰堂

## 圖説

凡商民の屋皇城よりハ内城ニ多く内城より外城ハ増まさり山西河南山东江南浙江なとの州郡より商賈輻輳集り國々の産物を蓄へ繁花なる事難言盡

正陽大街ハ正面の通街にして肉市胡同ハ羊豕の割肉を商ひ鮮魚口ハ魚店也凡市店ハ菜市糧食店ニ賣賣屋多し珠玉市胡同ハ器用家具街手帕胡同布市胡同ハ絹布帽端ハ手覆等の物を商ひ其外長椿寺胡同廟市大街等の名ハ日本京師六角通賢仁寺町と如言





# 唐土名勝圖會巻之四目録

## 外城

正陽外門

### 外城之東

永濟橋
南營東南一守備署
祈年殿

金臺書院
精忠廟
永定門

魚藻池
天壇

東小市
圜丘

外城之西

西月墻
大学士兼文安軾邸
織光鶴廟
北城正指揮署
洗象
大慈仁寺
西城史司署
白紙坊
聖安寺
玉皇廟

萬壽関帝廟
大学士李文貞邸
琉璃廠
松筠禪林
長椿寺
廣德寺
西便门
古林院
寄園
水月禪院

延壽寺
荔子園
永光寺
三忠祠
都土地廟
善果寺
朱竹垞寓居
火藥局
憫忠寺
怡園

攖頭菴
梁家園
仁川營
順城门
巘園
歸義寺
廣寧门
右安门
萬壽西宮
大学士陳文恭邸



関帝廟
黒窯廠
黒龍潭
斗姥宮
苑囿總圖
臥虎橋
方澤壇
西黄寺
望京村墩臺
東嶽廟
北營外西一守備署
黒松林
三忠祠
延寿寺

張相公廟
窯臺
都城隍廟
先農壇
郊坰
多宝佛塔禪院
薊门烟樹
華藏寺
北營外東小守備署
朝日壇
天妃宮
謊糧臺
蒯徹墓
圓覚寺

元帝廟
慈悲菴
東嶽廟
親耕
松林閘
北極寺
北營遊擊署
護國天仙廟
明令忠潔公墓
東城副指揮署
淨住寺
大通橋
中營外東南守備署
宏善寺

晋陽菴
陶然亭
仁壽寺
観音寺
土城関
功德林
東黄寺
滿井
碧霞元君廟
中營外東守備署
隆壽寺
藍靛廠
神木廠
隆禧寺

呂皇后斬韓信
舊衙門行宮
南紗宮
元靈宮
永祐廟
草橋
廣恩寺
廣寧門
蘆溝河
大慈觀音寺
元劉秉忠墓
夕月壇
崇壽寺
慈壽寺

金臺
晾鷹臺
新衙門
永慕寺
寧祐廟
百泉溪
九蓮慈蔭寺
天寧寺
蘆溝橋
普濟堂
白雲觀
關帝廟
宝塔寺
摩訶菴

南苑
大閲
團河行宮
德壽寺
龍王廟
豐臺
祖氏園
柳巷村
金閣寺
福生寺
釣魚臺
三義廟
慈悲院
神虎橋

更衣殿
雙柳樹
碧霞元君廟
關帝廟
南路同知署
南營外南二守備署
年氏園
濕水
惠濟寺
西路同知署
玉淵潭
太乙集仙觀
靜樂堂
西城副指揮署



慈慧寺
雙林寺
極樂寺
萬壽寺
清華園
永寧寺
覺生寺
圓明園守備署
清漪園
龍神廟
呂公洞
靜宜園千總署
觀音堂
圓通寺

西域寺
西直門
大眞覺寺
萬壽街
洪雅園
聖化寺
西苑園
昆明湖
大報恩延壽寺
玉泉山
上下華嚴寺
普陀山
隆教寺
太和菴

元福寺
高梁橋
白石橋
暢春園
[illegible]園
永通寺
圓明園
功德寺
耶律楚材墓
龍王廟
西山
荷葉山
五華寺
退翁亭

顯應寺
樂善園
廣源閘
暢春苑守備署
泉宗廟
龍翔寺
長春園
甕山
畫眉山
靜明園
中營遊擊署
十方普覺寺
廣泉寺
廣應寺

靜宜園
碧雲寺
香山寺
十八盤山
洪光寺
宗鏡大昭廟
宝相寺
中峯
翠巖寺
杏子口
靜宜園把總署
盧師山
平坡山
嘉禧寺
馬鞍山
仰山
滴水巖
油雲寺
百華山
燕山
西湖山
百望山

# 唐土名勝圖會卷之四

故蒹葭堂木世肅先生遺意

編述　法橋　岡田玉山尚友
　　　　　　岡　熊岳文暉
　　　　　　大原東野民聲　仝畫

## 外城

外城ハ内城乃南面を包めぐる城なり。南面の亘り二十八里高さ二丈。羅城門七。正南を永定門といふ南の東を左安門といふ南の西を右安門といふ東を廣渠門西を廣寧門といふ東北の隅に向ひて東便門あり西北の隅に向ひて西便門あり以上七門なり 正南永定門ハ即内城正陽門の正中なり。此通衢を正陽大街といふ。街の北に正陽橋あり。石梁三ツ正陽門外城河に跨る橋の南に牌楼を建て扁して漢字にて正陽橋の字を書せり。壯麗人目を驚るかせり。 橋の北ハ月城の甕門の外圍城の敵圍にて月門のならし處に月城といふ。 圍門常に閉て開くる日ハ唯天子の駕至る時ハ是をひらく。月城の東西に洞門各一あり城中外の官民これより出入す。正陽外門なり。東の方廣渠門街ハ西の方廣寧門街と直に通じ。其正陽街の十字街を猪市口と名く。左安門街ハ[illegible]

唐土名勝圖會
正陽門正陽橋
○正陽門ハ即内城の正南の大門なり
正陽橋ハ正陽街ニ係る皆外城ニ係まり
左の二ツの圖ニ出ス正陽甕門
三餘ハ皆一なり
○外城の七門ニも又城圍あり
其形圖にして唯永定門ハ
内城の西直門
と同じく城圍
角ニ東便
西便の二門ハ
城圍なし
○城河の水
玉泉山より
發して西北に
流れ内城
の九門を
遶て大
通河に
達ス
即ち
内城
の城
濠
なり
内城
外城
城圍
關帝廟
正陽外門
東月牆
城河
東河沿
正陽大街
西河沿
京師
卷之四

又直に内城の崇文門に通じ、左安門の丁字街と午街とよぎり、斜に内城の宣武門に通ず。正陽街ハ外城の正中なり。街の東と西とを両ヶ分て次に記す。

## 外城之東

觀音大士廟　外城の内東辺にあり。刑部尚書張照が碑あり。○關帝廟　外城の内西辺にあり。明の焦竑が碑あり。篆書は其昌が書なり。

龍王堂　外城の東、崇文門の外、東城の根にあり。上に朝陽閣といふ。毎歳十月十五日より翌三月十五日まで宝を設て織女を祭き貴人臣らあつまる。○東門橋　崇文門の外正陽橋の東にある。其跡扇面の下に鐘を刑添百貨を商ふ。城に傍ふる。正陽大街石道の旁に搭蓋の棚房多くあつて鐘とは二城帶夾道と称し、棚といふ。の居民群集して日用の雑物、果菜の屬を賣ふ。大街東側市房の後は裡街にて、悉く商賈匠作、貨棧を開て生業とする。其街の名は肉市、瓜子店、鮮魚口なり。斜に猪子口にある。其様打磨廠といふ。猪北を東河沿といふ。鮮魚口といふ内を南北の巷を眼鏡胡同といふ。上下の長巷を頭條、二條、三條と條等の胡同といふ。大蒋胡同は斜に三里河に出る。其大街の内に小蒋胡同、氷窖胡同あり。

○査樓　肉市にあり。査樓は戯場の号なり。前代の巨室査氏の人はじめてこれを建、後廷朝名を廣和戯園と改む。此街口に小木坊あり。査樓の額をかけたりしが、乾隆庚子の年火に燬けり。後てあらたに建て廣和查樓の額を懸たり。○蕭公堂　打磨廠にあり。明の萬暦の間に建。祠の内に洪都御祠乃位を刑す。世に江西の人多く居住し、是等の人皆云く、蕭公は唐の時の人にて其名を詳にせず。

徐江郎の私長なりしが、嘗て太陽洲にまつて道を学び、後に仙して去まつり、のち順天王と封ぜられ盧應なりといふ。蓋蕭公は鄱陽湖の神なり。清朝此に祠を建て中城南城の界とす。○北營内北東守備署　蕭公堂の後、東河沿にあり。○南城兵司署　打磨廠の東、衛路口にあり。○靈佑宮　打磨廠にあり。明の嘉靖中に建。許旌陽真人を祀る。額を厳嵩が書。明の天啓二年の鼎あり。○關帝廟　東口にあり。明の司礼監張政が宅を捨て建る所なり。正統の間。○崇真觀　打磨廠の南巷にあり。額を景泰と賜ふ。又國子監祭酒胡濙が碑あり。○關帝廟　高廟胡同にあり。明の代に称する鼎あり。○中城兵司署　北蘆草園にあり。

○呉越王錢鏐祠　蘆草園にあり。雍正二年勅して巡撫呉誠武肅王に封ぜらる。此祠は王の裔孫世希の建る所なり。○鐵山寺　三里河橋の西にあり。明の正徳の間、僧鐵山といふ者此寺を開く。募縁して三里河橋を修理せり。○三官廟　三里河橋の東にあり。古槐の大樹二株あり。羽士多く此に往く。○三里河　恵河に接して通恵河と名け漕運道なり。今河を廃して鐵閘は尚残せり。又南河漕、北河漕乃名を残せり。○關帝廟　薛家灣にあり。廟の前に坊を立て關帝聖境の字を書す。○崇文門稅務署　崇文門外大街にあり。○中營東南二查稽課雜詠詩曰　九門征課一門專，馬跡車塵互接連。内使自收花擔稅，朝朝插鬢掠雙錢。○中營参将署　崇文門内外。抽分廠にあり。○南城守備署　上三條胡同にあり。○火神廟　花児市にあり。毎月四日西口にて市立。○都竈君廟　日下にあり。門外に鐵獅二を列ぬ。康熙乃御筆の標あり。毎歳八月の二日三日には、俗呼んで燔桃宮といふ。○太平宮　東便門内大橋の南にあり。羽士の居る所なり。毎年三月朔日より三日まで廟市あり。○東城兵司署　東河沿にあり。○臥佛寺　花児市の東口にあり。山門の内に圓殿あり。佛其中に立。後殿に臥佛あり。長一丈二尺。又十三佛あり。臥佛の肩背に環りて立り。○爐聖菴　廣渠門の内にあり。老君を祀るなり。

## 查樓

查樓ハ戲場の名なり日本の芝居のごとくに屋を構へ席を設くる〇此查樓の坊を金に正中ハ戲臺にして觀人ハ集り立て見るなり其ノ周りは桟敷の様なるに設け女子の觀所とし其邊酒樓麪店肉舗菓棚の肆をなせり

隆安寺　花児市の東南にあり。明の萬暦中蜀の僧孫華林といへる者募縁して浄土殿堂を搆へ後此に集りて念佛し毎歳元旦景観に臨みて佛に宣し名付て夕照寺と云ふ。後閣の傍に建立す。

廣渠門　外城の東門也

[illegible]

政十一の其一なり。

義學　廣渠門の内にあり。雍正年間韓城の衛永祚といへる者建る所也。乾隆の間紳士公輸といへる者又これを修営し六齋と分て学徒を侶ふ。

育嬰堂　廣渠門の内夕照寺の西にあり。康熙元年育嬰堂を建京師の内に嬰孩を遺棄する者あれば拾ひて此に収め紳の鰥寡孤独とあはれむ。保息の功深保赤乃額第に育嬰堂の碑記は雍正帝の御製也。雍正二年帑金を出し且歳の租息を取て乳哺の費に供し又有司の謹愿なる者を撰て甚のことを掌しむ。

夕照寺　萬柳堂の西北の方にあり。創建の年月を詳にせず。全堂の夕照とふ。故き名なりけり。此寺の名小史といへる燕京八景の一つにして故き名なりけり。殿堂は高松の図あり。右方は陳壽山が画る双松あり。皆一時の名筆也。其左の壁には王安昆が書せる高松の賦なり。

過夕照寺　魏之琇

閒来僧院愛幽清　斜日軒窓迥自明　鐘聲不聞林鳥寂　鮑家詩唱古先生

藤田顯

拈花禪寺　卽萬柳堂なり。廣渠門の内東南の隅にあり。萬柳堂は大学士益都馮溥の建る所也。康熙の二十一年倉場侍郎石文桂此地を買て大悲閣となし又弥勒殿を建立せり。且僧に施して住まはせしむ。是より一の梵刹となれり。康熙皇帝拈花禪寺の額と僧拈花偉徳元の編を賜ふ。今恭しく大悲閣上にかけたり。〇康熙の間博学鴻詞の科を設け待詔の学士此萬柳堂に雅宴を開き文彩を聞し毛奇齢が萬柳堂の記あり。〇今寺中に図圖一頃むかしなる小土山あり。即むかしの蓮池花嶼の遺址なりと云。

萬柳堂陪謙益都公詩　古徐乾學

絲綸閣外唱彤騶　攜客還爲杜曲遊
種樹已成金谷勝　鑿池初引玉泉流
綺堂晴帶千峯秀　碧宇雲開萬井秋
醉吐車茵何足道　夕陽洗爵重淹留

森世黄書

〇法藏寺　霍家橋にあり。寺内に高大弥陀塔あり。俗呼んで白塔寺と云。京師の東南の地なる。みより必風荒く塔の中梁棟巨材を横へ風のために側ざらしめんとなせり。夜に小地乃塔に掛ける人登るを以て此寺の弥陀塔は独り塔中空虚として登るに安し。塔に窓あり。窓毎に一佛を安り凡て十八佛。佛毎に一燈を設く。毎歳正月上元の夜此塔上塔下悉く燈

を縦し、遊りて楽を奏し、金光の窓とてらしハ、燦爛たる星のごとく、音楽の声中に鐘声をきこゆるハ菩薩の来迎かと疑ふ。京師の官民集り観る。栄えし此寺、金の大定の間に建て、弥陀寺と号し、明の景泰の間、今の名に改めたり。此門に道孚が碑あり。道孚ハ戒壇第一代の戒師にて、世に無頭祖師と称し。

左安門　外城南の東にあり。○西陽宮　法蔵寺の西にあり。順治の初年に建て西陽日君を祀る。羽士の居る所なり。○五虎廟　法蔵寺の西にあり。此廟ハ蜀の五虎将関羽・張飛・趙雲・馬超・黄忠の像を塑す。ここに祭祀あり。後て五虎廟とあらため、将軍を以て火災にかかりて悉く焼亡ぬ。今ハ殿に関帝の像のみを祀れど、尚五虎廟の名ハ旧に仍るとされ、と称し。廟前に古松二株あり。深蔭廟中に満つ。二百余年の古木也。○華厳寺　三転橋にあり。俗呼で槐寺と云。此地を鑿村社又大市荘と名く。遼の天会九年、梵書の名勝陀羅尼の石幢あり。此寺ハ仙露寺の講経比丘、圓秀開國男任師海が建る所なり。○関帝廟　蒜市口にあり。○清化寺　正東坊、三里河の南にあり。明の宣徳中建。

果(?)從[illegible]出帝城　[illegible]禪榻坐深更　[illegible]
山中住[illegible]詩[illegible]
人[illegible]愛佛[illegible]一[illegible]清[illegible]
而[illegible]聲　有清化寺明[illegible]政作
[illegible]澄水

○南城正指揮署　清化寺衛にあり。○明因寺　三里河の東にあり。明の萬暦の初年、肅太后の創建。此寺に李伯時が書せる[illegible]都の巻あり。[illegible]より人の為に賜ひと云。今存す。

なぜる物ハ應するなり。○萬暦二十九年、紫柏大師と云る大徳、五臺山より来て此寺に住し、或夜の夢に異相の僧十六人倚く来りて此寺に止らんやとたふと見る。翌日、巨なる雅物十六を負て売者あり。大師喜びて呼止めて是を見れバ貫休が画く所の十六羅漢なり。大師夢の應ぜし所、蔵収して此寺に安置し、寺を収めて什物とす。天啓二年、董其昌爰に遊り、佛成道の記を書し、且自ら香光居士と称し、蓋是より二十年前其昌紫柏大師と此寺にて相ひ、大師其時佛成道の記を書せんことを索む。其昌諾して未だ果さず。今此に来て是を書とする。大師既に物故をとげしかども其約諾を違へざりし也。其記九十二版、今石に刻して僧寮の壁にあり。○姚彬関王廟　金魚池の東数百歩にあり。此廟像ハ元代の故物にして殊に奇異の容儀なり。関公戎服にて跪し、右に[illegible]姚彬縛られて跪せしめ立つ形勢なり。傳ふ七人皆姚彬を見る貌なし。姚彬を縛せる者ハ関公の面と仰ぎ命を受るに似たり。馬あり。関公の前に立て其毛数根あり。是姚彬ハ其の将と常て関公の馬を盗めり。忽ち獲られて強ひ屈ざる容にして、その人呼んで盗馬廟と云。○天慶寺　天壇の北に薬王廟あり。其廟の西にあり。遼の時建。金の時火災に係り、元代に再建し、寺に李龍眠が十六羅漢の画軸あり。○永濟橋　金臺書院の東にあり。乾隆二十七年重修の碑あり。○金臺書院　金魚池の東にあり。康熙の御書額あり。廣育群材と云ふ。乾隆十五年書院と改し御製叙の碑あり。○魚藻池　三里橋の東にあり。俗呼んで金魚池と云。此所ハ四辺に居宅を構へ、中に池を設く。池の壊きは多く柳を植へ、又涼しみを来る人に売る商も此池に出して是を鬻く。此一群是を業とし、此池の南に天壇ありて其間の地面至て廣濶。毎歳五月端午の日、馬を馳せ御と試む。

[illegible]陽[illegible]柳且歡[illegible]霧[illegible]
[illegible]不歸[illegible]
右王士禛　七里[illegible]
紀府龍江小田仲卿

## 金魚池

明の時三里河の辺に武清侯李偉が別業あり河水を引て園中に注ぎ朱魚多く畜ひ或ハ小舟を泛て池中を消遥す園中に梅花亭あり四の面皆梅の雕りのごとく牕も窓も其形梅花のごとし門ハ梅を繞り梅の雕りも画も梅樹のごとし其外此亭中に用る器物及び几桌床榻悉く梅花の形ならざるものなし池と路をへだてゝ又梅花の楼閣あり其前に澄台あり又浮花楼あり流水に舡楼を架むりて丘に臭龍亭あり氷園二つを歴て数百間の長廊あり水際に小屋とつゞく緑藪に寄せ

をやしよりて村落と同じ宛も江浦の湊市に似たり今ハ亡さんり

李園小集

小橋行過柳溪灣
為訪園亭竟日間
出郭已知依緑水
登樓更喜見青山
寒泉落木疑邱壑
瘦馬深衣自往還
剩采東籬尋舊約
君應無夢到塵寰

明劉同升詩

帝京景物略 / 烏門録

东小市 米市街の南の隙地十餘畝にあり。毎日寅卯の二時朝市立。其交易する物貨ハ皆粗悪あるいハ古書画あり。估衣最多し。

南宮东南園一宇 三官廟揭 備置 殿内有塑

精忠廟 东小市の西にあり。康熙間に建。門外に秦檜夫婦が跪きたる像あり。○呉巌が詩に曰く、痛飲黄龍夫志酬。幽燕遺廟壮千秋。可憐屈膝秦長脚。得藉陳王解免不。金陳王元室放檜南還却誠

天壇 正陽門外永定門の东にあり。明の永楽十八年に建。垣墻を繞ること九里十三歩、一名圜丘と稱し圜壇三成。南に向ふ。形の圓なるハ天に象るなり。○上成ハ径九丈、高さ五尺七寸。二成ハ径十五丈、高さ五尺二寸。三成ハ径二十一丈、高さ五尺なり。上成乃石面九重、一九より環らし、遞に加へて九々八十一に至る。二成ハ九々八十一より一九を加へ、九十より遞に加へ百六十二に至る。三成ハ又一九を加へて百七十一より遞に加へて二百四十三に至りて畢る。すべて一三又七九の陽数に合せ甃む。

上成二成三成ともに四方に白石の陛九級ありて出入す。上成の石闌七十二、二成の石闌ハ百有八、三成ハ百八十。石闌合て三百六十。則周天の度数を象るなり。内壝ハ形ちまろく、周り百六丈四尺、高さ五尺九寸、門にあり。各柱ハ三門。其柱及び楣闌皆白石をもて継るなり。扉すハ朱の櫺なり。○壝の外东南の丙地に燔柴爐一あり。高さ九尺、径七尺、緑琉璃の瓦をもてこれを甃む。又瘞坎一あり。东西に燎爐五、西南に鐙杆三あり。○外壝の形ハ方なり。周り二百十丈一尺、高さ八尺五寸、門四。門の制内壝門に同じ。燎爐ハ壝の东西門の左右に分ち設く。

皇穹宇 壝の北門の後にあり。南に向ひ、楹を八ツ環らし、径りて八檐まろく、上に金頂を安ず。其基の高さ九尺、径り五丈九尺九寸。石闌四十九をもて圍く繞らし、南と东西の三方各陛あり。皆十四級。左右乃廡各五間、陛一出。○殿廡ともに青き色の琉璃瓦を覆ふ。圓垣の形まろく、周り五十六丈八尺、高一丈八寸。南に三の門を設く。崇基。石闌前後三乃陛あり、各十四級。

神庫神厨 外壝の东門外东北の隅にあり。各五間、井亭各一。

祭器庫 樂器庫 向神庫神厨の东に隣る。

宰牲亭 其东にあり。井亭一を設。

内垣 圜丘皇穹宇を繞し囲む垣なり。北の門の东を泰元門と云ふ。南を昭亨門と云、西を廣利門と云、北を成貞門と云。皆朱扉金の釘を旋ぐらす。縦横各九あり。南面昭亨門の外东西に石坊各一あり。

祈年殿 成貞門の北にあり。其形圓、南に向ふ。壇を三成に築き、上成の径二十一丈六尺、二成の径二十三丈二尺六寸、三成の径二十□丈をもてこれを甃む。石闌凡百二十をもて圍む。南北の陛三、东西ハ一の陛あり。壇上に殿を設く。其制まろく、内外の柱十二、中に龍井柱あり。上に檐三重、上に金頂を安じ、左右の廡各九間。○殿廡ともに青き色の琉璃瓦をもて覆ふ。○前に祈年門あり。崇基石闌前後各三の陛あり。皆十一級。門外の东西に燔柴鑪一、瘞坎一、燎鑪一。

皇乾殿 祈年殿内壝の北門外にあり。廣さ五間、青琉璃の瓦を覆ひ、又あり。内壝の周百九十丈七尺二寸、門四。南面に三の陛あり。級ハ九。东西各陛一出。又十九の石闌を環らし。○祈年殿内壝入り东門外にハ七十二間の長廊を設け、神厨宰牲亭等に雑集せしむ。通ひ道とす。是祭祀の附俎豆をもて雨雪を避る備へなり。外の圜垣ハ东西北の三門を開く。南門ハ則成貞門に接く。

唐土名勝圖會
京師
外城
巻之四
圜丘
接祈年殿
接祈年殿
門
内
垣
北
南
西
東
神樂署
外垣
圜
丘
外壝
内壝
泰元門
昭亨門
八

祈年殿
きねんでん
北
皇乾殿
祈年殿
神庫
祈年門
七十五間
東
西
接圜丘
成貞門
南

齋宮　成貞門外皇乾殿外圍の内西南の隅にありて東に向ふ正殿廣さ五間崇基石闌東西に三の階あり其階の東左に齋戒銅人の石亭一を設け右には時辰牌の石亭一を設けたり○廣殿廣さ五間左右配殿各三間なり○内宮の墻方百二十三丈九尺九寸門あり東三門左右各二門墻外に池をめぐらし東西に石梁三を架し左右に石梁各一を架せり又墻内東北の隅に鐘楼一あり○外宮墻方百九十八丈二尺隅に廻廊をなしてすべて百六十三間外墻又深き池を繞し宮門石梁内墻と同じ

神樂署　圜丘の内壝の西門外利門の外西北にあり東に向ふ大門三間門内凝禧門廣さ五間後に顯佑門あり七間凡奉祀協律の犠舎ハひとしく檐をつらぬ

犠牲所門　神樂署の南にありて南に向ふ大門三間房九十三間中に犠牲の神を祭り其後を宰牲亭とし東西に列屋あり皆牲牢を飼所とし又西南隅に一亭廊廡の中に設けたり

圜丘祈年殿共に圍垣二重なり　内垣高さ一丈一尺周り二百八十六丈一尺五寸外垣高一丈一尺五寸周り九百八十七丈五尺なり○西に向ふて二門あり南に[illegible]門祈穀門あり其南の門ハ圜丘に入北の門ハ祈年殿に入皆三門角門一

圜丘ハ天子親ら上天を祭り給ふの壇なり又皇穹宇ハ常に神位を奉安る殿なり　毎歳冬至の日天子常御恭しく皇穹宇の中に奉安さる神位を圜丘に移しまつり犠牲を全く陳ね恭しく天子を待へて親祀を行ふ天壇上成の正中に皇天上帝の位を奉左右の配位ハ太祖太宗世祖聖祖世宗高宗の列聖を祀る二成ハ大明夜明星辰雲雨風雷の神位を供し天子三跪九叩の礼を行ふ　祈年殿ハ庶民の為に五穀の登るを祈り給ふ皇乾殿ハ常に其神位を奉安る殿なり　毎年孟春上の辛の日天子常御恭しく皇乾殿に奉安したる神位を祈年殿に移しまつり犠牲を陳設天子を待ふて親祀を行ふ即ち皇天上帝の位を殿中南嚮の正位に供し東西に列聖の神位を配御食し天子親ら三跪九叩の礼を行ひ給ふ

旋閲章陪祀郊壇詩

圜丘清曉露氤氳南陛袞衣列鶴鷺
合路嚴朱旗引君駕黄鐘清駕九
霄雲氣泰時光連海宇室王門
拿化雲開穆祠官能備物馨香
室頼聖明君

渥和浅文貫

京師土脈少甘泉　顧渚春芽枉費煎　只有天壇石甃好　消波一勺買千銭
右　竹枝詞　嗚門録

右王士禎が竹枝の詞なり。言ハ京師の井水鹹くして飲べからず。此天壇の井ハ味ひ甘く殊に勝し。故に此詞あり。居人皆汲で日用に備ふ。○天壇ハ龍鬚溝に[illegible]。[illegible]雅書を採りて賣るところ婦科に[illegible]故なり。

永定門　外城正南の門なり。○外城内城を併せて東西中南北の五城に配し、永定門の東扇ハ南城に屬し、西扇ハ中城に屬す。此街の正中をさかいて中城南城のさかいとせり。

外城之西　ぐわいじやうのにし

○西月墻　正陽門外月城の西洞の門の外にありて正陽橋にむかふ。其形扇のごとく。中に城牆をつくり[illegible]。東月墻とは同じ。城に係る夾路を帽児胡同といふ。正陽大街西側市房の後なる裡街をは市廛旅店または商販または優伶叢集の所なり。東城よりも尚殊に繁華なり。其街の名ハ珠宝市といひ糧食店といひ南の方猪市口に至る。西の方大柵欄の裡街ハ煤市橋といふ。猪市口より西に通りて其横胡同を西河沿大柵欄大齊家胡同小齊家胡同王皮胡同[illegible]胡同施家胡同掌扇胡同雲居寺胡同濕井胡同乾井胡同といふ。又煤市橋の東にある横胡同ハ廊房頭條二條三條胡同なり。西にある胡同ハ李紗帽胡同楊梅竹斜街といふ。又煤市街の西にある胡同ハ楊家胡同炭兒胡同小馬神廟大馬神廟若帶胡同といふ。大柵欄の西南を斜に虎房橋の大街に出て、ことごとく外城總圖と合せ見て其方位を知るべし。

○萬壽關帝廟　西河沿にあり。此廟を以て中城北城のさかひとす。○延壽寺　西河沿に斜の西延壽寺街にあり。遼金の代に巨刹なり。明の正統間大原の僧湛然此寺を修造せし時瑠璃廠の地に渠を開て地中より延壽の二字を刻せし斷碑を得たり。故に今の瑠璃廠の地ハむかし此寺の地面なりし事を知る。

○攬頭庵　觀音寺街の[illegible]胡同にあり。比丘尼の居る菴なり。庵前に古き槐の木あり。周數十圍、空ありて枝葉繁茂せり。數百年の物なり。○大學士朱文安軾邸　煤市街にあり。朝堂良佐の額ハ雍正帝の宸翰なり。○大學士李文貞邸　西猪市大街にあり。變輔高風の額ハ康熙帝の御書なり。○芥子園　韓家潭にあり。康熙の初年錢唐の李笠翁寓居の所なり。今ハ廣東の會館となれり。○笠翁が撰著せる芥子園画傳三集あり。今世に行はる。○梁家園　十間坊の南にあり。明代京師の人梁氏の建る所なり。亭榭花木ことに一時の盛なりと極めたり。擴り流に泓を湛へて奥へと浴す。今廢せり。乾隆の間此所に壽佛寺を建。

過梁家園憶昔遊
此地是烟水當年笑遨遊故人皆喜草意新
又蘇秋門吟難藕露重霜寒蟀愁永懷川
上影斷遊世竟悠悠
丁丑夏日田郡公世

呉梅村が寓居ハ荒坊橋の小巷
深湖同にあり康熙の間湯少宰
此に寓して聯を集む其ハるの
字に

旁人錯比揚雄宅
異代應教庾信居

これを手書して柱に懸く

孫少宰承澤が故居ハ棗林
橋の西にあり名て孫公園といふ

朱彝尊集孫侍郎研山齋詩

勝序愁初豁高齋近許過
圖書留客少花藥閉門多
興每耽球鬉衣從挂薜蘿
千秋論述作出處本同科





## 鐵老鸛廟

廣さ僅一楹關帝を祀れり
殿の結構の上ハ鐵にて制る
鸛巣一つを設く風にちなみ
て旋轉なる屋上まるの巣と
なすを防くためなり瀧
又庭前に槐の古樹あり
明の嘉靖甲寅劉譯が
碑あり萬曆庚子の年に
造りたる鑪一基今に
存り

○永光寺 遠廠の西にあり。元の時、大萬壽寺と云。曹洞下の僧、青州の辯公が居ありし所なり。明の勅恩と云る僧の建し所。碑あり。其文中に辯公居此。湛然居士為其上首外護の文あり。湛然とは耶律文正王楚材がことなり。屏山とは李純甫が事なり。李が許道寧が画屏あり。

明の莊烈帝の御師秦良玉が詩あり。曰く、蜀錦征袍手製成。桃花馬上請長纓。世間不少奇男子。誰肯沙場萬里行。

四川営 石碑衚衕の虎坊橋の西北斜にあり。四川の女師秦良玉が兵を屯せし處也。

○松筠禅林 西にあり。明の楊椒山先生が寓居の所なり。即椒山先生をここに祀る。乾隆年間重修あり。

○北城正指揮署 菜市口の北、鐵門にあり。

○琉璃廠 西河沿の南にあり 梅竹斜街にあり 此所琉璃窰多くあり。當時滿人漢人の監督を設け瓦を焼しめ御用に備ふ。此地南北狭く東西長さ二里ばかり。其間に燈市あり。凡燈市は前に記せる東安街のことにありしを、今は正陽門外及び花児市・琉璃廠・猪市・菜市などの諸處にあまたあり。其中に此琉璃廠の市最も多人なり。廠の前には雑技のたぐひ多くあつまり、鑼を撃し鼓を鳴し、其夛いくまでひとしく京師の遊客雑踏して先を競ふ。又市に鬻ものは或は書画、或は要具、あるひは時果、或は魚肉、悉く備へたりといへり。此日正月初の八日又九日より此市をはじまりて十六七日に終る。世人是を光廠と称す。

○三忠祠 上斜街にあり。明の忠臣の張忠烈公銓、襄陽の高忠節公邦佐、太原の何忠愍公廷魁三人を合せ祀るなり。皆山西の人なるをもて、郡と山右三忠祠と云ふ。清朝になりても祠の左に明の忠臣二十人を附祀す。右には清朝の忠臣二十六人を附祀すと云ふ。

○順城門の西に河あり。毎歳夏の初伏に此河にて象を洗ふ。観る者両岸に立て堵のごとし。昔は紅棍をもて象を牽て岸にいたり、鑼鼓を鳴して象を進退せしむ。凡鼓を鳴せば象河中に入り、鑼を鳴せば河より帰る。



洗象行　　王士禛

水關蒼々柳陰碧寶馬流蘇分絡繹日中傳呼洗象来
玉河波躍珊瑚赤須臾鉦鼓干雲霄萬丈犇穿如秋霄帚毛
蠻奴踞象頂郎山不動何岩嶤岸邊突兀二十四直下波濤若崩
墜縱横欲蹴黿鼉宅騰蹙還成鵝鸛隊乍如昆明習樓戰
萬乘旌旗眼中見又如列陣昆陽城雷雨行天鬼神驚奴兮
胡旋氣逾壯忽沒中流躍巨浪撇波一躍萬人呼蹯然都出層
霄上今年象相放夜郎扶南監況求王章遠隨方物貢
天閑此時一立仗金揩高聖朝自不貴異物致此亦足威遐
荒黄門鼓吹暮復動海立山搖呼浩洶大秦獅子多
威神山林豈足天家珍

春嶽鼎新書

洗象

## 洗象要具

**笛**

牛の角もて造り声を発して象の進退を令しむ

吹口

長六寸計

歌口以竹作

**校**

牛の角もて制し練汗を捲て象の脚に纏ひ動くるを制す

長八寸計

皮縄

## 洗象全圖

**橛**

河中に立て象を繋ぐ杭なり

耳鉤

頸索

校

引索





**耳鉤**

象の耳広く垂て荷葉のごとし鉤をかけて繋ぎおく銅にて作る長尺寸餘

索長又尺八寸計

**筰**

象を洗ふ汗ざらひなり

皮

柄乃長三尺餘

鉄にて制る

刃長尺寸又分

**叉**

とびぐちにかけて象を進退せしむ

**掃**

鉄制九寸計

**頸索**

象の首を橛につなぐ具なり

真鍮 径二寸

叶縄 雄象ハ三尺九寸 雌象ハ三尺一寸

頸索 雄象ハ三丈九寸 廿八曲 雌象ハ二丈一寸 三十二曲

屋角晴聞噪晩鴉土墻一帯任周遮行人欲認詩人寓老樹鄰邊第二家
苔垣舊剝玲瓏句土室新安曲盞牀莫話寄園全盛事酒旗歌扇已滄涼

◯憫忠寺 菜市の西南爛麪胡同の西にあり。唐の貞観十九年に建。東西に両塔あり。高さ十丈余なるが今なし。元の安禄山史思明の立る所なり。雍正九年重修して法源寺の額を賜ふ。則ち世宗帝御書の扁額及び御製法源寺の碑なり。又乾隆四十三年重修ありて御書の忠の碑を立らる。

○唐の太宗皇帝東征の時、士卒の戦亡を憫み、其遺骸を収め幽州城の西十余里に葬り、墓と名く。又幽州城内に寺を立て憫忠寺と号く。寺中に高閣あり。世の諺に憫忠高閣去天一握といへり。唐の幽州城は今の外城廣寧門外なり。

○宋の謝枋得元の兵に擒へられ、燕京に至り、謝太后が攅所及び瀛國公の前に於て再拝慟哭し、已にして病に臥し、憫忠寺に遷しが、壁間に曹娥が碑あるを見て哭して曰く、小女子も義に由りては死をいたす。吾は汝に及ばざるかと、つひに食を断て死し、明の景泰中謚を文節と賜ふ。

萬壽西宮 萬曆年中に建。原盆兒胡同にあり。明の東西萬壽宮あり。其東宮は既に廢せり。西宮は関帝を祀る。又呂祖殿あり。其後に斗姥閣あり。此閣三層にして高さ丈余。明の神宗皇帝御製の碑あり。

◯玉皇廟 盆兒胡同にあり。明の萬曆年中に建。清の順治の間重修ありて世祖皇帝此所に幸し給ひぬ。

◯水月禅院 爛麪胡同にあり。順治十六年西涪の王無咎が書し額あり。四牌の萬壽東宮にありし諸葛孔明の像は中國が像にしてここに移せり。○京師春の二月に溝渠あり。其穢気人を觸て毒のひどし。此爛麪胡同は溝甚廣く深きこと二丈許。溝渠の時これを開けば臭悪更に通せず、臭気最も甚し。○唐の時幽州城の址なりしが、今の大溝は其城の濠なり。

◯怡園 横街の西七間樓にあり。康熙年間大学士王熙が別業なり。康熙帝御書の額三を賜ふ。一は席寵堂といひ、一は蒼年頌徳といひ、一は曲江風度といふ。今其館廢して民居と為る。

○山荘清沐駐驂驛曲徑通街出巷南繞到射堂門啟處門紗映出一山藍　毛奇齡



甘移桐帽游棕鞋隨分琴書占小齋
老去逢春心倍惜為貪花市住斜街
朱竹垞移居槐市斜街詩
蓋景偉

廣寧門 外城の西門なり。元代これを彰義門といふ。◯白紙坊 此は崇果寺南は萬壽宮西は天寧寺までの間皆白紙坊と称し、居民すべて紙を造るを以て家業となせり。

◯古林院 白紙坊にあり。黄黒社祠なり。関帝を祀る殿の前に戯台あり。◯火藥局 白紙坊の西南にあり。

右安門 外城南の西にあり。◯聖安寺 午街の東聖安寺街にあり。金代に建し、清朝乾隆二十四年重修して額を勅重建古刹聖安寺と扁す。内殿の額は皆乾隆帝の御書なり。○三世佛の像三尊あり。黄吉物なり。今これを静明園に移さる。又旃檀佛像一尊を寧寿宮に移さる。其餘の佛像は皆荘厳を加へ、寺の完好なり。○東廡の中に二の碑あり。其一つは前に旃檀佛の像を刻し、諸表臣の記あり。後には達磨の像を刻し、達磨言が賛あり。今一つは前に観音の像、後に関帝の像を刻む。倶に萬曆己酉八月の立なり。○金の世宗及び章宗の宸妃李氏の像を寺中に絵く。

◯寄園 菜市の西南教子胡同にあり。康熙年間戸科給事中趙吉士が別業なり。今尚残る屋数楹残れり。樹木のありさまいにしへのものもしらい出らるありさまなり。沈德潜嘗て此に居と移りて詩あり。

九月九日人黒窯廠登高地依磨

中衛録

(28) 一石一斗八升八合
(29) 二十石三斗四升
(30) 二石五斗
(31) 七十四里
(32) 三丈七尺五十寸
(33) 七十二日
(34) 四千圓
(35) 三圓
(36) 十四秒二十六分ノ五
(37) 二百三十六枚
(38) 三百三十六里

(27) 4 : 16000 :: 6000×4 : x

(28) 7−0,12 = 0,88　7 : 795 :: 0,88 : x

(36) (12 2/3) : 7 :: 30 : x

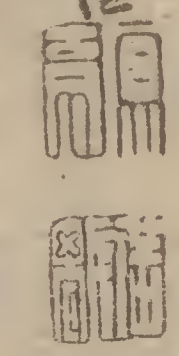


○大學士陳文簡邸　縄匠胡同にあり。墨日堂の額ハ康熙帝の宸翰なり。○關帝廟　米市胡同にあり。明の天啓年中内宦等が建る所なり。清の康熙
の間児鑪一と挑甲。此に納さむ。曾て寺僧の云。康熙帝此に練拳し給へり。
なり。廟の中門常に閉て開くる事なし。日本にいへる御成門と等し。○張相公廟　延旺廟衚衕にあり。
其しへハ関帝廟の地なり。康熙二十二年蕭山紳士等建して文武二帝を竝び。
祭代に封したる浙江潮神錢江王張公を合せ祀ぬ。周之鱗が詩あり。○元帝廟　驢馬市にあり。明の代に建て今ハ
收税局と為れり。某所にハ馬神を祀れり。○門外東西二里許が間。○晋陽菴　潘家河沿の南にあり。内に觀音の銅像三尺餘
毎日黎明より市ゐ雜物を商ふ。是を東小市に同じ。依て此を西小市と云。
なる物ありて。上に大唐貞觀十七年尉遲敬德造の款識あり。又務恣秘書丞表が緘書の古佛菴乃三
字あり。極て妙工を盡せり。今翠微山の含經に移りと朱彝尊が日下舊聞にみえたり。欽定日下舊聞考
に依て考るに古佛菴ハ受水塘といふ所にあり。此像原晋陽菴に在しを古佛菴に移しける。翠微山の
含經ハ宣武坊橋の東にありて今の瀨沼御祠なり。其傍に眼藥菴といへる所に其銅像の丈二尺あると
若材龍女の像を供ふ。銅像甚だ古潤なりといへども尉遲敬德の款識なし。其餘翠微山の含經に觀
音乃銅像あるを以て疑らくハ人のみな銅像と見換られたるか。或ハ好事の者の附會の説に係るか。詳
に知るべからず。
ひとなり。○黒窰廠　右安門内東馬道衚衕斜に東小にあり。明代轆廠と制造する所なり。清朝に至り。轆廠の制造ハ窰戸に命してこれを倣辦しむ。此所ハ廢地となりし星
此地坡壠なる下し蒲葦参差として都人幽賞の所なり。今其廢窰の上に眞武殿を建てり。廣さ三
楹ばかりなる小小屋となりて道士ここに居れり。其路口にハ靈官閣ありしより坡徑を紆回盤折
て登りけるとなれば遠眺尽さいふばかりに名けて窰臺と称し。夏月ハ此窰臺上に涼棚を搭し。茶具を設
け。都人遊客の所とせり。九月の季にいたれバ岳の四面蘆花白く乱揺し。素緑をひろぐへきと疑はる。
都下の騒客秋雪と称し。是ゆゑ
に彰勝に並て南城の二勝地たり。

黑窰廠
一の窰臺と名づく

○慈悲庵 黒窰廠の南にあり。城垣に近し。西偏に陶然亭あり。小院の内に遼の慈智大師が佛頂尊勝大悲陀羅尼の幢ならびに記あり。又庵前には金の天會九年の石幢あり。幢の正面には佛像を縷。三隅は呪文を刻む。皆西域の梵字なり。漢字をもて標題す。其語に曰、淨心法界陀羅尼。觀音菩薩甘露陀羅尼。智炬如來心破地獄陀羅尼の字なりて其一隅は漫滅して僅に年月の字を辨ずるのみ。

○陶然亭 即慈悲庵の西にあり。康熙乙亥の年、江郎中藻の建る所也。亭の名は白樂天が詩に、更待菊花黄。家醸熟。與君一醉一陶然。の句を取。今尚士大夫此に燕集せり。

溪風吹面靄晴瀾
葦路蕭蕭鴨滿灘
六月陶然亭子上
葛衣先借早秋寒

杭世駿陶然亭詩

澧水原吉書

○黒龍潭 先農壇の西隅にあり。潭は即方池にして水涸る時中に一の井あらはる。石をもて甃り。旁に龍王亭あり。歳旱魃すれば此に雨を祈る。乾隆三十一年勅して修飾をくはへたまふ。

○都城隍廟 撲衙の東、先農壇の西北にあり。康熙年間勅してこれを建。

○東嶽廟 都城隍廟の東にあり。順治年間に建らる。

○仁壽寺 先農壇の北にあり。明の萬暦の間、依平山の紗着真玉といふ者此に來る。内官張朝なる者宮女陳秋香にたよりて紗着真玉が事を仁聖太后に告ぐ。太后遂に司禮監馮保に命して仁壽寺を建立し真玉を居しめ給ふ。乾隆の間京師の士民これを重修して殿宇完整なり。

○斗姥宮 天橋の西にあり。康熙年間に建。普慈圓延壽圓の二の額は康熙皇帝の宸翰なり。是も京師の士民重修し完整せり。

先農壇 正陽門外の西南永定門の西にありて天壇と相對す。一名山川壇といふ。垣牆の周回六里。中に天神壇・地祇壇・太歳殿・先農壇・耤田等悉く備はれり。○先農壇の制は方にして南に向ひ一成をなす。方四丈七尺、高さ四尺五寸。四方に陛あり。各八級なり。東南に瘞坎一あり。壇の北に神牌を蔵る殿あり。廣さ五間。神庫 殿の東にあり。神廚 殿の西にあり。井亭おなじく一あり。

觀耕臺 先農壇より東南にあり。制方にして廣さ五丈あまり。高さ五尺あまり。四面は金蓮と黄緑瑠璃を彫り、東南西の三方には各八級の陛を設て繞に白石の闌楯をならべたり。耤田 觀耕臺の前にあり。

具服殿 觀耕臺乃後にありて南に向ふ。廣さ五間。三方に陛あり。南は九級、東西は各七級なり。神倉 具服殿の東北にあり。中央の廩は其制圓く前に收穀亭あり。左右の倉、廣さ十二間あり。神倉の後は祭器庫なり。繞に周垣あり。南に門一あり。

太歳殿 先農壇の東南にあり。正殿南に向ひ廣さ七間。三の陛あり。各六級。東西の廡各十一間。前に拜殿あり。廣さ七間。拜殿の東西には燎爐一あり。内垣南北東西におのおの門あり。

太歳の神を祀ることは明の初めより祭まつり、時の禮官議して陰陽家の説に十二時の神を以て山川壇の正殿に祀ひて是を祭まつり、後に且春秋二祭乃ち同月をもて其の各神と兩廡の内に分ち祭る。明の太祖皇帝の定め給へる祭式なり。其後嘉靖の時にいたりて禮臣等奏して曰く、太歳の神は唐宋より以來祀典にのせず。唯元代に是をまつれり。國朝はじめて定祀となし給ふ。説文を按ずるに太歳は木星なり。一歳に一辰をめぐる。十二辰をめぐりて周天す。されば其の天神たる事明けし。宜しく別に壇を設けてこれを祭るべしと。此において太歳殿を建られたり。清朝も又此例によりまつり給ふ。

唐土名勝圖會
京師
外城
卷之四
廿一
先農壇
北
南
西
東
太歲殿
神庫
神廚
祭器庫
神倉
先農壇
具服殿
觀耕臺
耤田
宰牲亭
後殿
前殿
慶成宮
宮墻門
內垣
外垣
地祇壇
天神壇

親耕
御製耕耤禾詞
檣臺洛茹東古今
籍田千畝此躬臨
剛放於雨後春隴
又看輕雲佈曉陰
觀耕臺
五色旗
皇帝
龍亭
采亭
從耕卿九人班位
御田
蓑笠耆老上農中農下農班位

**神祇壇墻** 先農壇の内垣の外東南にあり。正南に三の門あり。墻の内天神地祇の二壇を設く。

**天神壇** 東にあるを天神壇といふ。制方にして南に向ふ。一成となせり。方五丈高さ四尺五寸五分。四方各九級の陛あり。壇の北に青白の石龕四を設け雲形を彫ぼりたり。高さ各九尺二寸五分。雲雨風雷の神を安んじ奉る。内壝方二十四丈あまり。高さ五尺五寸。壝の正南に門あり。三門六柱。東西北の三方は各一門二柱なり。欞及び楣闑皆白石。扉は皆朱欞なり。

**地祇壇** 西なるを地祇壇といふ。壇制方にして北に向ひて一成となし。廣さ十丈。縦六丈。高さ四尺。四方各二級の陛あり。壇の南に青白の石龕又を設く。其の三は山形を彫ぼりて五岳五鎮五山の神を安んず。其の二は水形を彫める石龕の下を圖とする池を鑿かなりの時に此池中へ水を注ぎて四海四瀆の神を祭る。高さ各八尺二すあり。又壇の東に従位の石龕二ありて各山形と水形を合せたるもの。京畿の名山大川の祇を祀る。西にも同じく従位の石龕二ありて各山形と水形と彫りて天下名山大川の祇と祭るなり。高さ各七尺六寸なり。壝の方二十四丈高さ五尺五寸。正南の門は三門六柱。東西南は各一門二柱及び楣闑皆白石。扉は朱の欞なり。

**慶成宮** 壇の内垣東門の外北にありて南に向ふ。正殿五間基高く石闌をめぐらし前と左右とは各九級の陛あり。後殿又五間。左右配殿各三間なり。正殿の前すなはち時辰牌の石亭一あり。内宮墻の南に三門あり。東西には掖門各一。外宮墻の南に中三門左右各一門。東南に鐘楼一あり。○壇の外垣周囲三百六十丈余。東に向ひて門二。南と北とにひらく。其南方の門は先農壇に入る。西方の門は齋殿に入る。何も三門にして前門一なり。

耤田は先農壇の東南にあり。これを帝耤と称す。北に臺を築き皇帝耕を觀給ふの所とし觀耕臺と称す。仲春吉亥日皇帝親ら帝耤に耕したまふ。其の時にあたりて禮部より奏して王公三人卿九人を選んで耕に従しめんと請ふ。又鴻臚寺官は帝耤の両旁東西に表を立て従耕の者を位し。順天府尹より太和殿の東檐下に二の案を設け龍亭采亭をおいて耕具とつくる。耒耜及び穀等は即ち皇帝親ら耕給ふ農具にして飾るに皆黄をもちてす。又親ら耜と称まさに給ふ。従耕の三王九卿の耒穀種は黍をそ種まく。各これを青箱に納へたり。時に皇帝中和殿に御し給ひ先農を祭る祝版を閲し給ふ。中和殿





に御し給ふ。此時戸部尚書耕具を陳設けたる案の前にて中和殿に入。殿の正中にこれをつらねおく。耒耜は穀種の案。殺は穀種箱の案なり。極て戸部禮部の尚書侍郎各屬官を率ひて中和殿丹陛の南に重行西面して立ば禮部の尚書一人保和殿にありて皇帝を請ふて中和殿に出御あらしむ。皇帝即ち陳設ける耕具及穀乃種を閲し給ひ終て輿に乗て宮に帰り給ふ。戸部官耕具の案を舁て中和殿の東檐よりおろし順天府尹其案を徹て耕具を捧げて午門より出て龍亭采亭の中に陳設く。鑾儀衛官舁ぎ出て耤田の耕所にまつり龍亭は帝耤の左右に陳べ采亭は東西の従耕の位につらねるなり。其日鑾儀衛法駕鹵簿を出し和聲署官樂を奏しこれを導すなり。且日にあたれば皇帝禮服して先農壇に祭給ひ終て具服殿に御して龍袍に召かへ給ふ。此時従耕の王公陪ひ侍班の各官朶服して儀を候ふ。帝耤の正中すなはち親耕の位となるつらね鴻臚寺官又戸部尚書一人東面して右に立ば順天府尹鞭を奉げて西面して左に立。東西には従耕の朱耒各二いとつらねて鴻臚寺官て以て青箱を奉る者は各次に鑾儀衛校尉和聲署正三人並二人は耤田の左右に立。和聲署丞十四人は金鼓拍板笙簫笛等を司る者二十人は鬚帶の先農にならび次第を掌つて左右に立。甚に歌ある二の朱旗ともに撃者八十人は蓑と被り笠を戴き鋤鑰を執る者二十人は牛を牽く耆老三十四人は上農夫十人中農夫十人下農夫十人は耒耜穀と各の外に立て相まじりて班を分ち均しく東西に面て序立となせり。又鴻臚寺鳴賛二人侍儀御史二人は耤田を狹みて序立し耕に従はざる王公及び三品以上の文武官は皆觀耕臺の側に序立し。附して禮部尚書奏して耕耤の礼を行ひ給はんことを請ふ。皇帝此時具服殿を出で給ひ耕位にあり南面して立給ふ。耕に従ふ三王九卿は次を就て東西に面して立。者又位に[illegible]ひて鳴賛官耒を進めよと唱ふ。戸部尚書北面跪して耒を皇帝に進む。再び鞭をとりて[illegible]唱ふ時順天府尹北面跪きて鞭を進む。皇帝即右に耒を執り左に鞭をとり給ふ。立給へば耆老二人牛を牽き上農夫二人耜をたもつ。礼部太常寺鑾儀衛堂官各二人恭しく皇帝を導き耕耤の礼を行ふ。和聲署官は署史を率て朱旗を揚げ司樂官は金鼓を鳴し耒耜を執る左右に従ふて行く。順天府丞青箱を奉げて行く後へ戸部侍郎これを播種す。此時皇帝三度推し三度返して耕耤の礼畢れば又もとのごとく耒鞭を止む。時に鳴賛官耒と受よと唱ふ。戸部尚書北面跪きて耒を受く。又鞭を[illegible]

# 花園郊垌



よし響ふ時。順天府尹北面跪て鞭を受く。其時順天府丞青箱を奉げて龍亭のまへに陳設ば礼部又霍正屬官を引て退くなり。時に礼部尚書奏して觀耕臺に御し給ハんことを請ふ。皇帝やがて午陛より陞りて座し給ふ。記注官二人西の階より陞り其臺上の西南の隅に立。従臣の官ハ王公百官を引て其臺下の左右に立しむ。此時にあたりて耕る所の三王九卿次序を以て耕耤の礼を行ふ。各着老一人牛を牽き農夫二人犁を扶く。順天府屬丞倅一人青箱を奉し一人播種となす。かくて此時三王ハ五度推し五度返し。九卿ハ九度推し九度返せり。礼畢て各鞭耒とをもって観従の席に立ば執事官青箱を耒耜とて陳設。鴻臚官ハ順天府尹及ひ属官とを率の官人着老農夫を率て其臺前の甬道を西より東面して立。ハ鳴賛官跪叩頭し鳴て数ひて一同に三跪九叩の礼を行ひ籍田の事終て献を投り礼部尚書既に礼の成ると奏すれば皇帝玉座を立て東陛より下り輿に乗て齋宮に降給ふ。此時導迎の楽を作し祐平の章を奏す。王公従御其外の各官次第にして退き。かくて此前着老農夫らは各布匹を賜ふ。秋に及んで五穀をのりおさむるを奏すれば吉日を擇でこれを神倉の中にをさめて粢盛宗廟社稷を祀る事に其祭盛に供し給ふ。○天子時順省方し給ふ時は官を遣して耕耤の禮をとり行ひ先農を祀らしめ給ふ。

其遣官の礼ハここに略さる。

○觀音寺 先農壇の南永定門の左にあり。明の崇禎の間王應魁つくる所也。世蔡に母を懸て旌棠となせり。其寺今ハ廃して荒宮元寂が碑あり。

外城此にあたりて続まはり。其寺觀廟洞のぞめるさ若ハまぢかくこれを略せり。凡て内皇城

内城外城先を京城と稱ハ巻首より詳に熟察せば清國今の京師の

光景を識るす。恰も掌中に指が如し。希ハゆかりせよ觀る事勿き。

# 苑囿總圖

長春園
圓明園
蓄水湖
鳳凰墩
釣魚臺
拱極城
黄牛岡



昆明湖
靜宜園
靜明園
香山

## 苑囿郊坰

松林閘 京城の北の西徳勝門の外にあり即ち城河の北の閘なり。其水玉泉山より発て。高梁橋 京城の西北西直門外にあり梁河に係る。より東北に流れ。徳勝門の外に至て。別れて二流となり。其一ハ水関より内城にいりて御河となり。一ハ松林閘を出て東に流れ。安定。斉化の二門 京城の東北の門なり を経て通州に至り。白河と合流す。

土城関 徳勝門の外にあり 是れ乃ち薊州の地なり。一名薊邱 此所旧館舎高楼建つらねしより。今悉く廃れ。唯林木蓊鬱として。蒼翠の色深し。即ち京師八景の一つにして。薊門烟樹と称す。○臥虎橋 土城の側なり ○多宝仏塔禅院 明の粛皇帝の建る所なり ○北極寺○功徳林 ともに土城のあたりにあり

方澤壇 京城北の東安定門の外北郊にあり。壇の形方にして地に象どる。方に折ル十九丈二尺八寸。深さ八尺六寸。濶さ六尺。沢の中にはめぐりを繞て方丘北に向ふて二成となせり。○上成の方六丈。下成の方十丈六尺。陛く高さ六尺ずつ。上成の面中ハ六六三十六の瑠璃を含んで磚とし。外の八方ハ八八六十四の尾を以て成と様り。縦横各二十四尾なり。二成ハ上成の八方八八の数に倍し。いづれも六八の陰数に合せ。皆黄色の瑠璃瓦を以て是を砌す。



上成二成ともに八級の陛に方ごとに皆白石にて是を制す。○二成の上南の左右には五岳・五鎮・五陵山の石座を設け。山の形を彫刻せり。北の左右には海・瀆の石座を設け。各々の形を彫刻す。うちがるしく西と東に向ふ。其石座の下には池を鑿て祭礼毎に水を貯ふ。内壝の広さ方二十七丈二尺。壝の北に三門。其余ハ東西と南には各一門二柱あり。擅墻闡皆白石。廟にはそのく朱櫺あり。其壝の北門外の西に瘞坎一。燎炉五を設く。○外壝あり方に十二丈。門の制内壝に同じ。其東西門因の左右にはそのく瘞坎一つあり。皇祇室 外壝南門の外にあり北に向ふ。広さ五間。黄瑠璃の瓦を以て葺く。闊さのめぐり四十四丈八尺。北に向ふて門一つを設く。神庫。神厨。祭器庫。楽器庫。皆外壝西門の外にあり。宰牲亭 其西にあり。井亭・亭各一あり。斎宮 宰牲亭の西北にあり。東に向ふ。正殿七間。崇基。石闌五。陛あり。左右の配殿各七間なり。内宮の門ハ三間。左右の門各一門。外宮牆周百有十丈二尺。門三。東に向ふ門の東北に鐘楼一つあり。壇内垣 周八百に十九丈二尺。西と北に各三の門あり。東と南に各一の門なり。外垣 周七百六十八丈。西に向ふて門三。角門一あり。毎歳夏至の日をもれて天子躬此壇に諸り。皇地祇を祭り給ふ。皇帝於方澤祭地之禮畢。○北営遊撃署 ○東黄寺 ○西黄寺 ○華厳寺 ○護国天仙廟 方澤の側にあり ○満井 安定門の外東北にあり。井の径ハ尺余。清泉ありて。つねにしるし溢る。いつも石を以て縁を造り。井の周りに水ね井に溢る。閑外に散漫して日暑を避るに甚佳し。井の旁に小亭を設け。蒼茫たる流れを。都人遊て満井と称す。○望京村墩甚室 ○北営外東小守備署 ○明

# 薊門煙樹

北極寺



多宝佛塔禅院

臥虎橋

野色蒼々接薊門
淡烟疏樹碧氤氳
過橋酒幔依稀見
附郭人家遠近分
翠雨落花行處有
綠陰啼鳥坐來聞
玉京盡日多佳氣
縹緲還看映五雲

金幼孜作

方澤壇
陪祀方澤詩　施閏章
雨後仙壇碧草芳遙聞三露出芝房
崇墉栢帯青霜氣方澤波含明月光
天仗旌旗嚴咫尺精靈嶽瀆走蒼茫
朝来回輦西山見五色晴雲接建章
公燕書
皇祇室
内壝
外壝
東
西
北
南

金忠潔公弦之墓。○碧霞元君廟 以上、京城の東の外、東直門外にあり。

東嶽廟 京城東の南なる朝陽門外にあり。元の延祐年中に建られ、累朝勅修し給ひ、廟戸を設けて、これを守らしむ。康熙帝、暨び乾隆帝の御書扁額、并に御制の碑、詩などあり。

此廟の塑像は元の劉鑾が造る所なり。大都南城長春宮の都提點馮道真といふ者始めて東嶽廟を創る時、其後に請ていはく、此廟の像は劉奉正が塑る所なりといへども、いかんぞ奉正を勅して禁ぜられざる。其揮ふ所の筆、我奉正と相同じく、強て罪して我霊に薨とべし。しかるに劉奉正の此事を請ふ。奉正勅のいまだ許されざるを憚て、被て甚しからずと聽せず。附て奉正病にかゝりて、乃ちこれを知り、のがるゝ事二日。盛なる者の如し。或人奉正がおそれて、動ける事を此に請う。奉正其門人に孫に謂て曰く、速に我を東嶽廟にいたらしめよ。始て庿する所其後良賤をかまい像して此像を塑んとす。朝廷に奏し、終に二帝の像を造りて儀既に成りて没んで、病悉て平日のごとし。朝廷ここに霊あるとして、奉正に二品の位をたまふ。今の廟像是なり。奉正は劉鑾が字なり。

○廟の制、南に嚮ひ、内外圍垣二重。廟門三間。牌坊門三間。瞻岱門五間。正殿七間。両廡各三間。廻廊各二十六間。據とつく。後は一通に東を帰道とし。左右に御碑亭各一。鐘鼓楼各一あり。外に石梁三を跨し、左右に随門各一。○後殿五間。東西の廡各三間。廻廊各七間。三座の後に琉璃坊あり。其前に石碑あり。東東あり。御碑亭は黄琉璃をもつて覆ひ、門廡は皆碧琉璃を用ひ、鐘鼓の楼はいづれも緑琉璃をもつてす。

朝日壇 朝陽門外、東嶽廟の南数歩にあり。毎歳春分の日、此壇に日出を迎へ、大明を祭り給ふ。凡甲・丙・戊・庚・壬の年は皇帝親ら詣で祭り給ひ、乙・丁・己・辛・癸の年は官を遣して祀せ給ふ。壇の上の正位には金版を設、大明之神位の字を朱をもて書す。壇の制方にして、西に向ひ、方五丈、高さ五尺九寸、面は金甎をもつて甃し、九級白石の陛。四方にかくまり、墻は圓く周り七十六丈五尺。正面の方に三門あり。東、南、北各一門。ならびに欞星門皆白石。扉は皆朱欞なり。西門の外に燎炉、瘞坎一。其西北に神楼一つあり。

神庫、神厨 壇の北門の外にあり。広さ三間。宰牲亭 井亭一と繋く。神庫の北にあり。祭器庫、楽器庫、棕薦庫、後に壇の正北にあり。

具服殿 西北の隅にあり。南に向ふ。正殿三間。左右配殿各三間。繞るに宮墻をもつてし、宮門三あり。皆南に向ふ。

壇垣 周二百九十丈五尺。西北に各門一。何れも三門。北門の西に角門一あり。すべて緑琉璃の瓦をもつて、ことことく作れり。

扶桑一出海寰中　壇墠春風禮向東
位首三辰光燭物　象崇兩曜晝垂空
經天度數乾坤合　帰地規模斤澤同
九獻進終帰瑞緒　金烏呈射右壇紅
芳之雅　朝日壇陪祀詩
李義

朝日壇

○東嶽廟指揮署○中営外東守備署○小営外西一守備署○天妃宮○淨住寺○隆壽寺 以上皆朝陽門外にあり○朝陽門の外に石道を築きて東の方通州に至る。朝陽門石道記の碑は乾隆帝の御製也。○太平倉。萬安倉。儲濟倉。裕豊倉は門外にあり。

黒松林 朝陽門朝日壇の外にあり。此所古松樹数千株有りて森沈と日陰をも漏さず。故に黒松林の号あり。都下の貴賤常にきたりて游宴の所とせり。

議糧臺 朝陽関の外六里にあり。むかし唐の太宗高麗を征し給ふ時、此に兵を屯し、虚く園倉を多く拵へて敵人の勇気を挫ぐ。依て此地を議糧臺と呼り。

大通橋 外城の東北にある。東便門の外にあり 橋下の水東に流れ通州に至り、白河に入。橋の東に慶豊閘と名る所あり。其廣さ十餘里、地勢高くして閘の下し古樹数万株或は偃或は仰ぐ。甚佳なり。金の章宗の故址也。○藍靛廠○三忠祠 祠は大通橋の東にあり。三忠祠は漢の諸葛武侯、宋の岳武穆王、文信公を祭る。

蒯徹墓 外城の東門廣渠門外八里荘にあり。古阜高さ丈許。上に井あり。

蒯徹は漢の韓信が旗下の士なり。嘗て人を相する術をもって韓信に説て云く、僕君が面を相するに封侯に過ず。君の背を相するに貴きこといふべからずと。韓信が曰く何の謂ぞや。蒯徹がいはく漢と楚と智勇を争ふは久しき事なり。今両王の命は皆君が手に係れり。漢のためにすれば則漢勝、楚のためにすれば則楚勝ん。臣君が為に計るに天下を三分にして君斉国に拠りて勢ひを張り、漢楚と鼎足のごとくならば天下の君王相率て斉に朝せん。天の与ふるを取ざれば反て其咎を受、時至て行はざれば反て其殃を受と。韓信が曰く漢王我に遇ること甚厚し。我豈利を計りて義に倍くべけんや。蒯徹が曰く勇略主を震す者は身危く、功天下を蓋ふ者は賞せられず。君今主を震すの威を戴き、賞せられざるの功を挟て楚に帰すれば楚人信ぜず、漢に帰すれば漢人震ひ恐る。抑又安か帰せんとするや。韓信謝して曰く先生且休よ。吾方に之を念んと。後数日蒯徹又説けども信終に漢に背くに忍びず、且其功多きをもって我斉国を奪はるゝことあらじと思ひて遂に聴ざりけり。蒯徹其言の聴られざるを見て去て佯り狂して巫となれり。乙巳の年、高帝陳豨を征し、其間に呂后が謀にて信を捕へ、武士に命じてこれを斬しむ。信斬るゝに臨で嘆して曰く、吾悔らくは蒯徹が計を用ひずして児女子のために詐るゝ事、豈天にあらずやと。遂に三族を夷らる。高帝洛陽に帰りて韓信が殺されしを聞て且喜且憐み、呂后に問て曰く、信死するに何とか云し。后の曰く信只蒯徹が計を用ひざるを恨とす。此に於て高帝詔して蒯徹を捕へしめ、責て曰く、君韓信に教へて反せしめんと計しや。徹答て曰く然り。盗跖の狗も尭に吠ゆ。尭不仁なるにはあらず、其主にあらざるを吠るなり。臣唯韓信を知って陛下を知らざる故に韓信が為にこれを謀るのみと。高帝是なりとして蒯徹を許せり。

高帝赦蒯徹

○中営外東南寺　統署○神木廠○延寿寺○園覚寺　以上皆廣渠門外。叙里にあり。

宏恩寺　外城南の東にあり左安門外。遊東麵村社にあり。明の正徳年間太監吾霖が建る所也。俗にこれを吾公荘と呼ぶ。吾公荘には宗子の古樹数畝に満て春毎に花を開けば恰も白雲を積るがごとし。盛宴は其家持の繁茂し樹下に坐を列て宴を設る。初日数てあつまりて已。袁公安といふ人嘗て謂く梨花の老松殿雲堂の栖吾荘の東にて許本中の三絶と称えたりとぞ。○宏恩寺の後に静楽軒あり修造完潔し西壁には周の呉が画し双鶴の図あり東壁には陳秉が書して徐渭が画鶴の絵をかけり。清康熙朝の御筆の名寺の額を二妙と称す。○隆禧寺　左安門の外にあり。

韋公荘樹下宴



金臺　外城の正南なる永定門の外東南三里ばかりにあり。土阜あり上に亭を建。乾隆帝御書金臺夕照の四字を勒す。燕京八景の一なり。碑は易水金臺の側にあり。

南苑　永定門の外二十里にあり。元代此所を飛放泊と称して明の永楽年中其地を増廣て南苑と名く。周垣百二十里。清朝も又前の明の制に隨ひ海子　苑中に水あり。海のごとし故に海子と名づく。其邊に民を住居せしめて海戸といふ。一千六百人を設置二十四畝の地を賜ひ苑中を守らしめ春に蒐し冬に狩し武を講ずるの地とし給ふ。是を称して苑囿といふ。即天子の御狩場なり。以下楽善園・團陽春園・因明園・獅子林・如園・清漪園・惠山園・静明園・静宜園等の諸園あり。すべて是を苑囿と称し即ち天子の御苑なり。繚垣一万九千二百八十丈九の門あり。正南を南紅門といひ東南を廻城門といふ。西南を黄村門といふ。正北を大紅門といふ。稍東へ小紅門といひ正東を東紅門といふ東北を雙橋門といふ正西を西紅門といひ西北を鎮国寺門といふ。南苑総尉一人あり。従六品即ち陽楽八人あり従八品なり。永宸苑　○東宸殿　大紅門の内にあり。○舊衙門行宮　小紅門の西南にあり。門殿三層あり蔭楡書屋といひ西を翠書房といふ。南を書室といふ。御書の聯額あり。後殿の東に翠蘭楼あり。其東に二つの宮門あり。内に二層の殿あり。○晾鷹臺　南海子の内にあり。高さ六丈徑十九丈周囲百二十七丈なり。高宗帝此に御幸ありて大閲を挙行し給ふ。大閲とは天子みづから軍を調練し給ふをいふ。

## 南苑（なんゑん）

南苑講武恭紀
時平講武近岐陽
甲冑蒐春出建章
洛水旌旗周甫草
西京詞賦漢長楊
御園雲氣成龍虎
天廐星精本驌驦
画戟雕弓森羽衛
射生群與奉君王
張英詩

凡三大閲ハ三歳に一たび旗列び終りて先兵部より奏し旨を得て王公大臣其ほかを總理し八旗の將士甲兵を合せ鹿角長槍神威砲及び子母砲出て畫角海螺旗纛の屬ひと拝節て陣を列ぬるの法を設るハ鑲黄正白鑲白正藍の四旗を左翼とし正紅正黄鑲藍鑲紅の四旗ハ右翼となり各旗を撥て隊伍をなさしむ漢軍の火器營鹿角歩卒を中より二つに分け滿州の火器營驍騎と左右につらね繚に兵十七人ハ撥七百二十人兵九千一百七十六人次ぐの前鋒營護軍營驍騎營をならび列して各其隊を分つ統兵大臣十六人ハ撥二百九十六人兵凡そ凡百十人大臣ハ凡の一を分て簾し後撥甲兵ハ其の一を簾し汲て殿らりうる次の護軍營驍騎營前列し統兵大臣八人ハ撥百に十凡人兵三千又百二十八人両翼を張左右に廂りうる凡旗大營の東ハ護軍驍騎營旗を標して相屬し縦に隊列ハ其統兵大臣八人ハ撥百三十六人兵い七百六十凡人其外畫角官十七人排步領催三十二人兵六百凡十人總兵官二十凡人皆法に隨ふて列をうる凡時に武備院大閲の所に於て御營を立其前に張殿を設く鹵簿儀衛鑾駕鹵簿の行列儀仗鼓樂と行宮の門外左右に陳す其上三旗營台の畫角と張殿の前に列し兵部ハ儀衛の海螺と其堂の下につらね軍陣及び總理王大臣八旗領隊都統各に遂凡此時師將撥軍大甲冑と被び營を出排をうる凡兵部堂官奏して駕を發んうるを請ふ時に儀を發る三聲鐃歌大樂を奏す壯軍容の章を奏凡帝馬に乗りて行宮を出御し從ふハ侍衛の大臣二十人内大臣十人騎馬にて前ニ並び黄蓋を張り領侍衛内大臣二人後扈凡侍衛班豹尾班執槍侍衛佩刀侍衛各十人佩弓侍衛二十人皆騎馬にて從ふ皇帝御營に入く甲冑にて佩刀て出給ふ總理王大臣滿大學士三旗大臣職務大臣等皆甲冑騎馬にて前後ニ隨從し鑾駕の大纛二凡にひるがへし隊を擁して進と從ふ陣に入ぶる三公九卿揚して左右に並び皇帝左翼より陣中に入て驍騎護軍前鋒步火器營名の諸隊をめぐり陣列の整肅を閲し還て張殿に還り從ふハ皆しろて兵部尚書陣を進るの角を鳴さんうるを奏し鑾儀衛使に命じて角を鳴し軍とぶ時に營台の畫角先鳴凡旗臺上の海螺其臺下に從ふの海螺次第によりて互に鳴し番々軍陣に達とんが其臺下の礮を發り三度即鼓打て陣を行ふ鹿角を舁て列を整へ進ひうる十歩此時金を鳴て進陣を止む纛の旗の動くを相圖として槍礮を揃して發し總軍並り進あうる一周又金を鳴りて進止り再び列を整へて旗を令を鳴し旗と動し槍礮を發るうる初のごとしかくのごとく進退周旋すうる凡九たび第十たびまではれが槍礮とつくて進し發し





更に聞えし金を鳴らせば即止八旗の軍隊鹿角を開き八門となし前隊前鋒護軍驍騎各列にを整へ鹿角の外に陣を列ね既に陣列の定まる時八旗鹿角門を閉一齊に螺を鳴し兩を發し兩翼の協隊進擬して大に進む軍中金を鳴し即止る殿とる凡の八旗火器營槍礮護軍驍騎及び前隊前鋒各旗大纛麾の下に列凡先より鳴螺振旅して次第を守て退き還る兵部尚書大閲の禮成るを奏すれバ帝張殿を出御なりて御營に入せ給ひ甲冑を釋給ふハ内大臣侍衛の大臣皆から揚く甲冑を脱回鑾を奏す鹵簿衛前後のごとく鐃歌清樂作り聖武の章を奏し駕を行宮に進めまつる此ホ扈從して礮を發ち三發鉄各營にかへりて甲冑を釋是日燕をたまひ賞賚各差あり。

南苑大閲恭紀　齋召南

禡牙金甲照南山　軍令重瞳曉自頒　三陣旗律天地合　百年清晏虎貔寫　風羽箭千鵰落　苑雪梅花萬馬還　共說西苑雄異著　御園親取大弓彎

米山人　錄

皇帝大閲行粧之圖

郡王
貝勒
貝子
鎮國公
輔國公
縣主額駙
滿大學士公侯伯子男文武一品文二品以上同
三旗大臣文三品四品五品以上同
文六品七品八品九品同
八旗都統
八旗副都統

前鋒参領
前鋒侍衛
前鋒校
前鋒校棉
前鋒棉
前鋒緑営兵
武狀元
藤牌営兵
緑牌営兵
礮手
驍騎参領
驍騎校
驍騎校棉
驍騎棉
驍騎兵
前鋒統領
護軍統領
護軍参領
護軍侍衛
護軍校
護軍校棉
護軍棉
護軍緑営兵
鹿角兵棉

○皇帝南苑及び其外苑囿郊坰に猟し給ふを大狩と称し、近郊に狩し給ふは囲場と南苑に設奉宸苑の総園大臣をして八旗の統領等を督せしめ、囲場の布置す。鑲黄・正白・鑲白・正藍の四旗を左とし、正黄・正紅・鑲藍・鑲紅の四旗は右に列し、両翼各旗ごとに分て哀とし、両哨ある両哨は白と用ひ両協は黄と用ひ中軍は鑲黄を用ゆ。狩田の日に一日先宮を出て狩田の縁を奉先殿の祖にかげし其日にあたれば皇帝征衣を御し馬に乗りて宮を出給へば翊衛の諸臣等引続て扈従し行営にいたり給ふ。先より先護軍統領営總管一人護軍参領護軍校を率し其地を蒞臨して度御営と名目旗に随ふ官兵各赤旗を踏東西に擁をとりて懸次きて天顔に進ぶ虎槍乃官兵集りこれを伐既に獣を獲ぬれば駕を行営に還し給ふ大狩の擬ぬて燕を賜ふ賞ふ。

○雙柳樹　海子の居中の地にあり　いにしへ此所に柳の古樹二株ありしが皆枯ぬ。今旧に随ひ柳樹を補ひ植て頌咏を崇しめ給ふ。旁に流れ一道あり。飲鹿池といふ西に白嵓石あり。北面に御製の詩を勒す。○南紅門　南紅門の内にあり。門ハ苑牆に對して宮の門一重なり。○團河行宮　黄村門の内にあり。門殿三層。門の東に鐵獅二あり。延祐元年十月製の字を鐫けたり。元代の物なり。○新衙門　德壽寺門内にあり。宮殿三層。後殿の額を暢遠樓といふ。内にあり。前殿の額を旋源堂といふ。後殿の額を涵道齋といふ。別室あり。鑒止書屋といふ。皆乾隆帝御書なり。東所大宮門の内に東西配殿あり。又九間房河中一殿あり。翠墨石亭・水榭房・六方亭・園亭等あり。

○鎮國寺　元君廟○元靈宮○永慕寺○德壽寺○關帝廟○永祐廟○寧佑廟○龍王廟○南路門知署　以上皆南苑の内外にあり。

南苑の内海子の西北の隅に坤ひく。每歳三月三日鐵の錠り集るもの。鐵数百万とらぬかぎりとまし。ひ、その鄂を設けせり。其高さ一丈許、雉堞ありて三尺の鄂を設けて是ゆへに鞍ぞ鐵日にして懸く鞍にゑひ入ることを鴨蛋墩と呼べるしぞ。蛋堆蛋垤のすがたくに載るもの、往々人見ることありといふ。此南苑の鴨蛋墩は唯清明の日に限りて顧ることそ實に奇異なりと謂ひ。又南苑西の牆の邊に廣き沙岡あり。其南に一ツの黍崢あり。歳く長さにありて、今其尺眺に比ぶるに余ること大にて、呼で沙龍といふ。

草橋　外城西南の隅右安門の外十里にあり。橋下衆水の流れ河まらあつまりて、水田の資となせり。此邊の泉をすべて花を養ふる。此人花を作りて業とせり。蓮池あり。其香数里に聞ゆ。牡丹芍薬の多きなり。稲麻のごとし。其外余乃諸花悉く冬にいたりても花を結ぶ。蘭を表に賣る者多し。凡京師蘭の貴きなり。それるべし。查嗣瑮詠詩　草橋十里百花妍。只有幽蘭種不傳。生長山中畏塵土。托根誰羨帝城邊。

百泉溪　府の西南十里。豐澤園にあり。平地に十餘乃泉あり。滙りて溪となりて、東南に流れて柳村に入る。

豐臺　右安門の外十八里にあり。此所の居民藝花を以て業とし、草橋河に即ち甚に運まりて園に此をとし、京師の養花の所とせり。乾隆帝御制豐臺の詩碑二あり。沈德潛　豐臺看芍藥詩　柔枝穠態若爲情。客裡看花眼倍明。略似少陵臨水見。五家合隊麗人行。

養花

○南営外南二守備署　○廣恩寺　○九蓮慈蔭寺　○祖氏園　○年氏園　以上皆右安門外にあり

**廣寧門** 外城の西門にあり。門外には石道を築き、盧溝橋にいたる。雍正帝御製、廣寧門外石道の碑あり。又乾隆帝重修石道の碑あり。

**天寧寺** 廣寧門の外にあり。此寺隋の文帝創建のとき宏業寺と云。唐は天王寺と名く。金は大萬安寺と号し、明にいたりて天寧寺と名く。清朝乾隆年間重修して、御書の額、御製の碑あり。**塔** 高さ十三丈余にて十三級をなせり。隋文帝乃建るところなりといへり。中に舎利を蔵す。此塔の四周に鐸を懸ること万許、風に吹れて鳴ること[illegible]

**柳巷村** 廣寧門を出て二里ばかりにあり。**財神廟** 乾隆元年是を建る。士民の禱賽賑しく、香花歳々盛なり。

**漯水** 即桑乾河なり。馬陘山より出れば此河の名を落馬河と云。山を出ては清泉河と名く。京の西にて洗馬溝に合流す。洗馬溝は府の西南に十五里のあり。漢の光武帝北巡の時、此河にて馬を洗ひ給ふ故に名くといひ伝へたり。○大原府淶源県の小燕京山に大なる池あり。昔此池の側にて東に登て釣し者あり。忽ち大風おこりて其人車と倶に池中に入り沈みしが、後に其車の輪一つ北桑乾泉の内に獲る者あり。是をもつて見れば此池の地下を潜りて相通へるならんといひけり。

**盧溝河** 宛平県と大興県を経て南の方東安武清に至り、直沽に入る。是れ即ち桑乾河の古道なり。又黒水と名く。水の色黒く、濁流急の



急なるは箭の飛に似たり。

**盧溝橋** 廣寧門の西南、三十里にあり。盧溝に跨り、南北往来の大道なり。金の大定二十九年始めて此橋を造りて、明昌三年落成し、廣利と賜ふ。乾隆[illegible]。長さ二百余歩、左右石闌に獅子数百頭を刻む。其態各異なり。康熙三十七年重修ありて、河の名を永定と賜ふ。分司を設て橋を管理しめ給ふ。又勅して永定河の神祠を橋の側に建らる。康熙帝御製の文を碑に勒し、又乾隆帝御書の盧溝暁月の四字並に詩あり。各碑に勒せり。東は拱極城なり。橋の邊り古樹蒼然として、暁星未月と倶に愛しつべし。橋上より遥に望めば西山の群峯羅列て恰も画のごとし。

過盧溝橋　宋犖

盧溝橋畔雪霜多
今日衝寒又一過
不道郷心南去急
祇将濁浪似黄河

閩南陳景山

盧溝橋

**金閣寺** 慈溝の邊り、石景山にあり。石景山ハ孤峯特立し、洞あり。磊石を鑿てなせり。塔あり。遠眺もつともよろし。

**恵濟祠** 石景山にあり。雍正年中に建らる。以て永定河の神を祭る。御製の詩あり。

○大慈観音寺○普海堂○福生寺○西路門都羅○元太保劉秉忠墓 以上皆廣寧門外にあり

**白雲観** 西便門の外一里にあり。元の太極観の故墟なり。内に丘真人の塑像あり。此像面貌白く、髭鬚少し。毎年正月十九日、都中の人群集して、これを名づけて燕九節といへり。康熙・乾隆両皇帝御書の匾額并に御製の碑あり。真人の像の前に木の瘤を刻て造りたる缽一あり。上ハ廣く下狭し。内に五斗を容る。金をもつて内を塗り、乾隆帝御製の詩を其中に刻む。傍に又石坐あり。號て皆糸鬧なり。

長春真人姓ハ丘、名ハ處機、字ハ通密、長春子と号ス。登州棲霞縣の濱都里の人なり。金の大定丙戌の年、親舊を辞して崑崙山に登り隠る。丁亥の年、重陽全真開化王真君嘉に寧海にまみえ、従て弟子となり、後に戊申の年召し出されて闕下に至りしが、去て終南山に還る。貞祐乙亥の年、金の帝其徳をまねかれども至らず。己卯の年、宋の帝使を遣りてめされけれども又山を下らず。此年の五月、元の太祖詔を齎し聘して召されけれバ、丘處機弟子十八人とこれを伴ひ、太祖に雪山の南にまみゆ。太祖國を治むるの問に答へて曰く、天を敬し民を愛す。長生の為には則ち清心寡慾を要とすべし。太祖深く其言を喜ぶ。宋の地に還らんことを乞ふにより、號を神仙と賜ひ、爵を大宗師となし、天下の道教を掌らしめ給ふ。甲申の八月、旨を奉て燕京の太極観に居る。丁亥五月、太極観を長春観と改む。其七月、仙須と郷りて逝り、年八十なり。至元己巳年、贈号長春演道主教真人と稱しぞ。



白雲観

**釣魚臺** 白雲観の西三里、阜成門の西凡一里計にあり。三里河の水泉源の内へ流れ、是ぞ白河に入る。金の章宗常に此所に遊幸し、後に乾隆帝御書、釣魚臺の三字をかゝしめ、并に御製の詩あり。明一統志に云、釣魚臺ハ府の西玉淵潭村にあり。臺下に泉湧出で瀦して池となる。其水冬も

釣魚臺とかや號け、孫氏に傳へて元の時の郡人王鬱といふ者此に隠居し、池上に臺を作り、賦詠を事として樂とせり。

呉煜 釣魚臺詩　金主鑾輿幾度來　釣臺高欲比金臺　可憐臺下王飛伯　不及僊魚得奮腮

**玉淵潭** 府の西十里玉淵郷にあり。元の丁氏の人の故迹なり。池の縁に堤を作り、は多く柳樹を植て景氣清爽なり。加之、沙禽水鳥翔ひ集り、尤も遊賞佳麗の所とうべし。

**崇壽寺** 西便門外白雲觀の西六里梁店にあり。門外に鐵獅二あり。鎮宅獅子の字を鐫つけたり。土人呼で鐵獅子廟といふ。

○**関聖廟** 府の西南蘆溝橋にあり。○**三義廟** 府の西桃園にあり。○**太乙集仙觀** 府の西御河家屋にあり。

**夕月壇** 京城の西南にある。阜成門外西郭にあり。毎歳秋分の日、此壇に月出を迎へ夜明を祭り、以て北斗五星二十八宿周天の星辰を配し、凡丑辰戌の年は天子自ら詣祀給ひ、其餘は官を遣して祭らせ給ふ。壇上の正位は東に嚮ひ、黄版を設、夜明之神位の字を白書せり。配位は緑版金書なり。

壇の制方にして東に向ひ、一成を以し、方四丈、高さ四尺六寸、面は金甎を以て甃き、四方各陛あり。六級白石をもて方墁めぐり、九十四丈七尺。壇の正東に三門六柱、西南北各一門二柱。及び欞星門皆白石。廟は紫葉欄なり。壇の東門北門の外に燎爐瘞坎一あり。東北に鐘樓あり。

**神庫**　**神廚** ともに三間なり。壇の南門の外にあり。

**宰牲亭** 一　**祭器庫** 各　**樂器庫** 三間 各一　**具服殿** 東北の隅にあり。正殿三間、南に向ふ。左右配殿各三間。御る小宮牆をめぐらし。



宮門は三、南に向ふ。**壇垣** 周二百三十丈九尺五寸、東北各門一、南三門あり。北門の東北に角門一あり。總じて緑琉璃瓦を覆ふ。

夕月壇陪祀　勞之辨

氷輪夕曜配朝曦　設坎規摸古制存
尚白總依商帝色　位西仍避太陽尊
節因小盡蓂留葉　魄待初生桂露痕
巻幔列卿空應象　羞將衰鬢照銀盆

西渠録

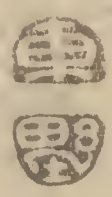
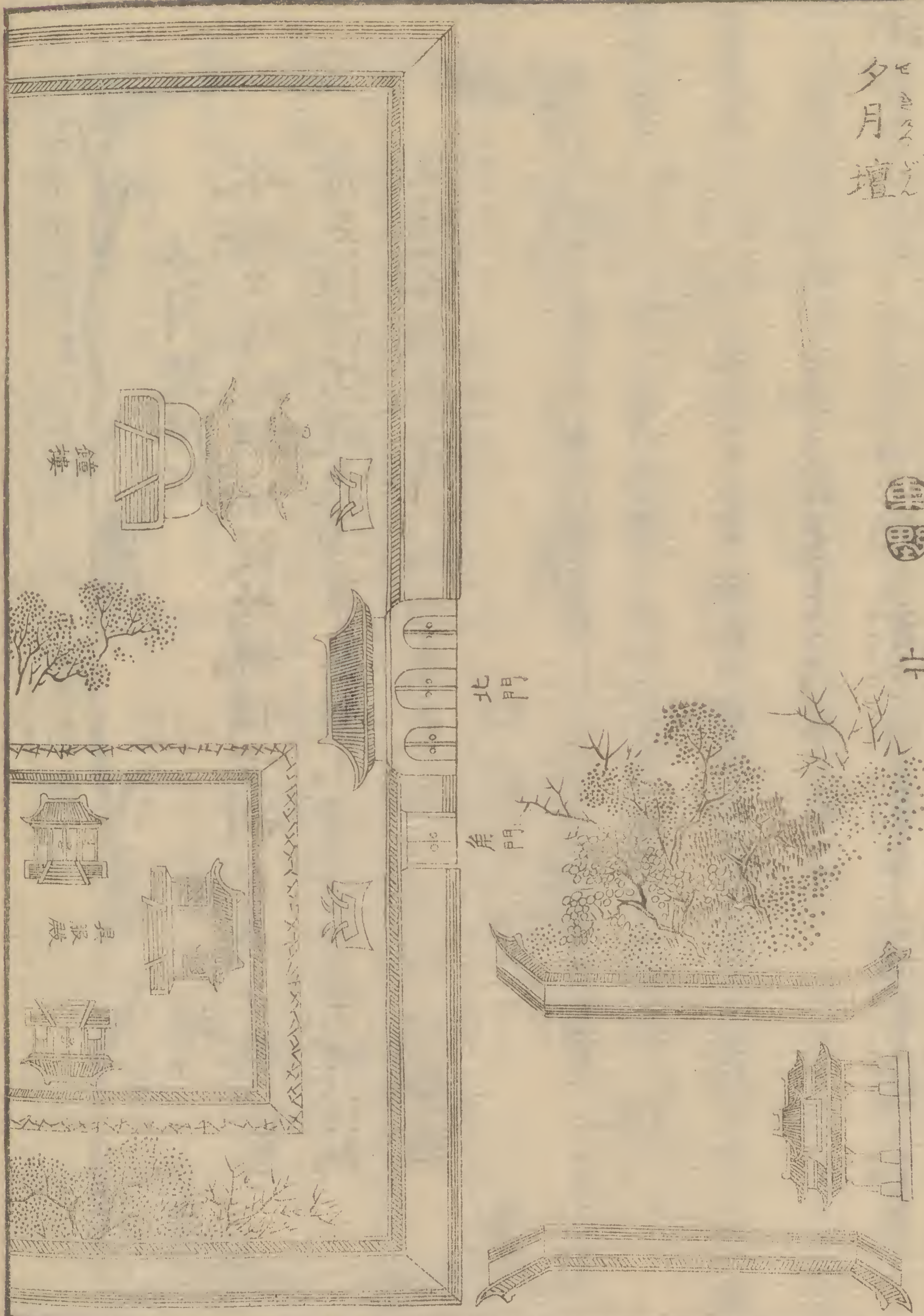
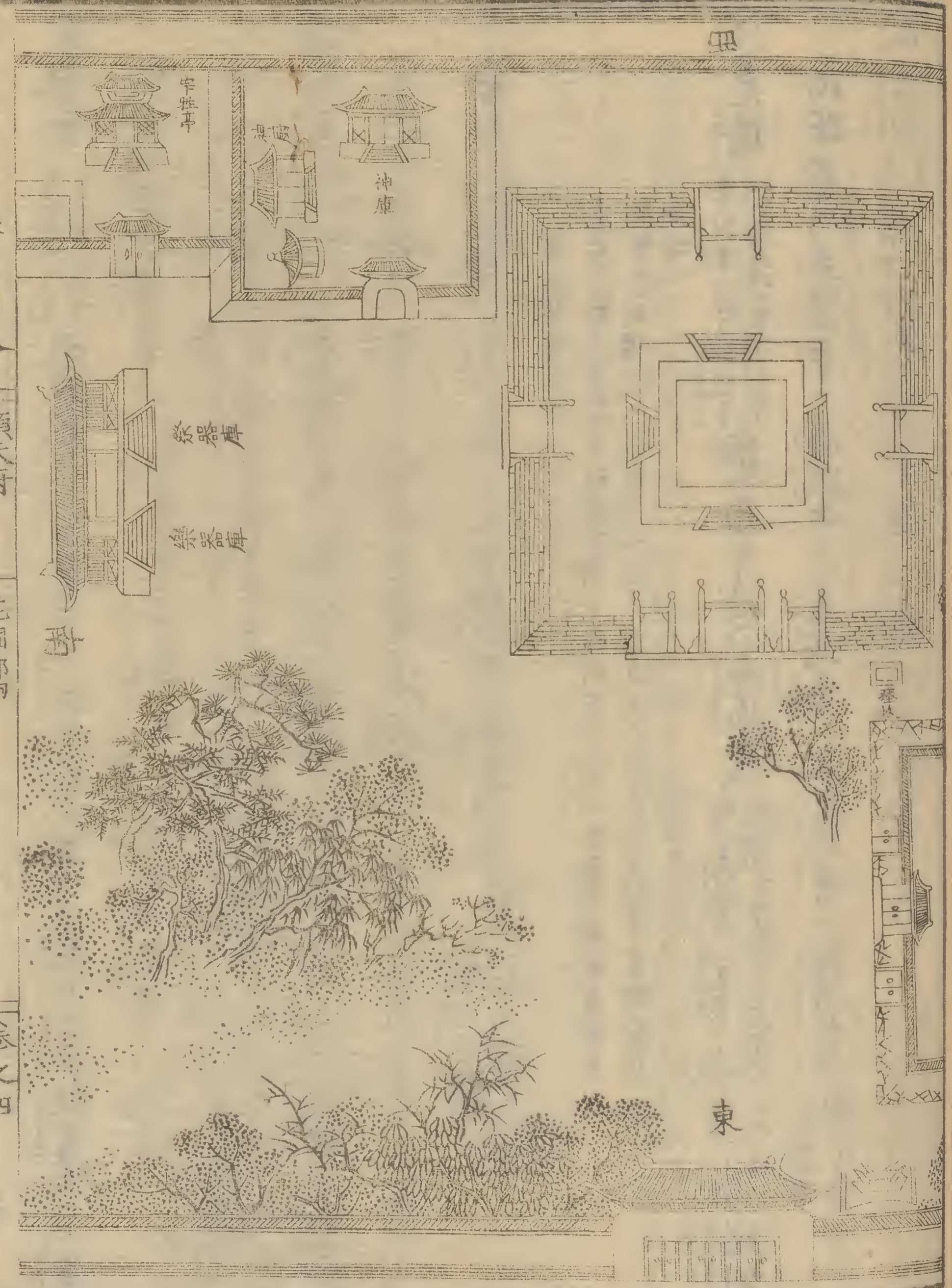
**寶塔寺** 阜成門の西にあり。弟に塔あり。高さ二丈許、五層六面、面毎に佛像を刻り。

**慈悲院** 阜成門の西、関廂大街にあり。乾隆二十八年、潭柘の僧募縁してこれを建、以て老人幼稚の廢疾罷癃なる者を收養する所とせり。

**静樂堂** 阜成門外二里、慈慧寺の後の方二里許にあり。都て宮女を此に葬る。所謂宮人斜は是なり。

西
宰牲亭
神庫
祭器庫
樂器庫
東
夕月壇
東門
北門

慈壽寺 阜成門を去る八里にあり 明の神宗帝、慈聖太后のために建らる。殿宇甚壯麗なり。左の方に永安壽塔あり。十三級なり。雲漢に挿めり。巳後は金剛の像を刻むがごとし。乾隆帝御書の額あり。
明の孝定皇太后夢に九蓮菩薩にまみえ経を授るを見給ひ、覚て後其経文を一字も違へず写し給ひて、又慈壽寺の殿後に九蓮閣を建て菩薩の像を安置せしむ。九蓮の菩薩ハ風に勝まつ。寺僧の云、皇太后の像なりと。

摩訶菴 慈壽寺の北にあり 此菴甚大ひならざれども潔浄なる事特に甚し。松檜菴中に繁り。四隅各高楼あり。登りて一望すれバ山ハ蒼翠を拱ひ、河ハ青帯を帯て備はせるに似たり。萬暦の後菴中杏花を植る事千余株、此に遊ぶ者山のごとし。天啓中に此樹魏璫のために毀られ。

摩訶菴看杏花　高士奇
青郊路轉見芳菲。日暖園林燕子飛。別圃乍經山杏落。僧厨新煮藥苗肥。繁花蝶蝶迎人面。細草輕烟上客衣。更向層臺高處望。千峯螺黛送春暉。

神虎橋 摩訶菴の西に雙林寺あり。其又西二里計にあり 橋の左右に石の石虎あり。明の萬暦中一虎忽ち夜の間に逃ぐる故に此橋を三虎橋といふ。◯西域閘

摘撰署 ◯慈慧寺 ◯西域寺 ◯元福宮 ◯聖感寺 ◯雙林寺 以上皆阜成門外にあり

西直門 京城西の北なる大門なり 門外石道を造りて圓明園に至る。



高梁橋 西直門外石道を行こと二里、高梁河に跨るを梁河といふ。玉泉山の湖水を注ぐ。橋より上を長河といふ。石道の北に二坊あり。南を長源永澤坊といひ、北を廣潤資安坊といふ。

樂善園 高梁橋の北に宮門あり。内に倚虹堂あり。堂の西長河にそふて二里許なり。すなはち苑囿なり。門あり北に向ひ、内に小溪を繞らせ、蘭を穿堂といふ。東に向ふを意外味といふ。石径を南に轉して旋眺賞心といふあり。内を含清斎といふ。東ハ蕭瑟と呼び、北ハ紹花園といふ。南ハ雲陰波動軒あり。此外園中の堂宇
亭室楼あり。彩あり。或ハ村舎或ハ田宅連つて置のごとし。遠峯て云べからず。今皆毀されて闕く。

極樂寺 高梁橋の北を去る三里ばかりにあり 門外に大柳樹二株あり。高きこと天を拂ひ、長枝蜿として地を掃へし。明の成化中寺内の牡丹盛しく、春日遊賞の人寺に溢る。東に雨花亭あり。西に通霞観あり。前に花楯に樸あり。各巨樹二人にて抱ふべし。今ハ皆枯れたり。

大真覺寺 極樂寺の西にあり 明の永樂の時、西域の中印土の僧板的達來りて金佛五尊を詔して大國師に封じ、此寺を建居しめ給ふ。成化九年中印土の式に準じ宝座を建て石臺を築き、上に五の塔を列ぬ。高さ各二丈、臺の下ハ梵字梵像を雕る。乾隆二十六年重修ありて、御書の扁額御製の碑文を賜ふ。

白石橋 西直門の西一里許にあり 明の萬駙馬が白石荘なり。臺樹皆古木にして附郭園亭の第一なり。

廣源閘 西直門の西七里にあり。閘とは樋の事なり。清朝頻に此を修造し。舟を昆明湖に入れ。繡漪橋に達し。清漪園に至らしむ。

萬壽寺 廣源閘の西。數歩にあり。殿宇きれいにて廣麗なり。左の方に鐘樓あり。華嚴鐘を懸たり。鐘の徑長さ一丈二尺。内外ともに佛号經呪。弥陀法華。諸品経を刻す。字數十万にあまる。捐修沈度が書。少師姚廣孝の監造なり。乾隆十六年。此鐘を撤し小の覺生寺に移し。御製の碑。清漢蒙古西番四體の書あり。

萬壽街 萬壽寺の西の路に関門を設け長街あり。是を萬壽街といふ。商賈並び肆をつらぬ。北は暢春園に通ず。土人蘇州街といふ。

暢春園 南海淀大河荘の北にあり。園の綠垣一千六十丈有奇。即明武清侯の花園といふ。此園圓明園の南に當れば。前園とも稱す。宮門の内は小河を環らし。中に九經三事殿あり。後に二の宮門あり。其中を春暉堂といふ。後に垂花門あり。門内の殿を壽萱春永といふ。後の坐殿を藏蔭と号し。西南門の内は積芳亭なり。正宮を雲涯館といふ。館の東南板橋を渡れば觀山と号し。上に蒼然亭あり。北は淵遠亭あり。北に龍王廟あり。其は淵遠亭の北にそひて南河に達す。廣渓門あり。内を澹寧居といふ。其前は即康熙帝御門聽政。選鋒引見の所なり。後は乾隆帝。御書を讀給ひし一室なり。後に河あり。橋を渡れば南北に坊あり。玉澗といひ金流といふ。又門あり。其内を瑞景軒とし。林香山翠といふ。後に高きものは延爽樓といふ。後は鳶飛魚躍亭。南は觀蓮所。左は式古齋。齋の後を綺榭といふ。園中。殿宇。亭臺有餘。悉く牧挙にいとまあらず。後に叢竹の河あり。船を通ず。其外。桃花堤。街巷。菜園。稲田。寺院あり。廟祠あり。皆壯麗にして又風致あり。恩佑寺は雍正帝の御容を奉し。関帝廟には康熙帝御書の額あり。乾隆戊辰の九月。園内大西門の樓上に皇帝幸ましまして。侍衛の大臣をあつめて射を試しめ給ふ。此時皇帝。親ら射をなし。二十矢を發て十九矢を中たまへり。即御製集鳳軒紀事の詩を石に勒せり。集鳳軒は大西門の内にある軒の名也。

大西門觀御射恭紀

曈曨初日照西山。百尺樓開紫翠間。御苑經塞欣草淺。秋風講武值農閒。虎熊的畫君臣鵠。鴻鷺衆分左右班。何幸此時叨侍從。大弓親覩至尊彎。

右　齊召南

賜遊暢春園恭紀

高齋復碧漢。甲觀倚清漪。靜檻無遺照。澄淵有易窺。燕閒仍典籍。苑囿亦芳茨。儉德尤堪紀。規模百世師。

蔡升元

王晟

廣源閘　西直門の西七里にあり。閘とは堰のことなり。清朝嘗て此を修造し、舟を昆明湖に入れ、繡漪橋に達し、清漪園に至らしむ。

萬壽寺　廣源閘の西、數宇あり。殿宇きびしくて廣深なり。左の方に鐘樓あり。華嚴鐘を懸けり。後の經長さ一丈二尺、内外ともに佛号題名、弥陀法華諸品經を刻す。其數すべて十万余字。明の沈度が書、少師姚廣孝の監造なり。乾隆十六年、此鐘を城北の覺生寺に移す。後に御製の碑、清漢蒙古西番の四體の書あり。

萬壽街　萬壽寺の西の路に関門を設け長街あり。是を萬壽街といふ。商買並び肆をつらぬ。北を暢春園に通じ、土人蘇州街といふ。

暢春園　南海淀大河荘の北にあり。園の縱徑一千六十丈有奇、闊六百丈有奇。是を花園といふ。此園圓明園の南に當るが故に前園とも稱す。宮門の内に小河を環らし、中に九經三事殿あり。後に二の宮門あり。其中を春暉堂といふ。後に垂花門あり。門内の殿を壽萱春永といふ。後の坐殿を蕊珠院と号し、西南門の内は積芳亭なり。正宮と雲涯館といふ。館の東南板橋を渡れば劍山と号す。上に蒼然亭あり。前は澹遠亭、其北は龍王廟あり。其後遠亭の後にそふて南河をこえ廣澤門あり。内を澹寧居といふ。其北は即ち康熙帝御門聽政、後は乾隆帝讀書の所なり。後に河あり。橋を渡れば南北に坊あり。選鍼引見の所なり。

玉潤といひ、金流といふ門あり。其内を端景軒とし、林香山翠といふ。後にあるものは延爽樓。又後は鳶飛魚躍亭。南は觀蓮所。左は式古齋。齋の後を綺榭といふ。園中殿宇亭台有餘、悉く數挙ことなし。後に釣魚の河あり。船を通ず。其外花塢、街巷、菜園、稻田、寺院あり。廟祠あり。宏壯麗ならずして又風致あり。恩佑寺は雍正帝の御容を奉じ、聖帝扁すは康熙帝の御書の額あり。乾隆戊辰の九月、園内大西門の樓上に皇帝御幸ましまして、侍衛の者をあつめて射を投しめ給ふ。此時皇帝親ら射を為し、二十矢を發て十九矢を中給へり。即御製集鳳軒の詩を右に勒せり。集鳳軒は大西門の内にある軒の名なり。

大西門觀御射恭紀
曈曨初日照西山。百尺樓開紫翠間。御苑經塞欣草淺。秋風講武値農閒。虎熊的畫君臣鵠。鴻鷺班分左右班。何幸此時叨侍從。大弓親覩至尊彎。
右　齊召南

賜遊暢春園恭紀
高齋凌碧漢。甲觀俯清漪。靜鑑無遺照。澄淵豈易窺。燕閒仍典籍。苑囿亦蒭茨。儉德尤堪紀。規模百世師。
蔡升元

暢春園前門

暢春苑守備署 海淀荘にあり

清華園 明の李戚畹が別業の址なり。園中亭を並て清雅の二字を銘せり。明の董玄宰の手書なり。園中牡丹多く、奇品異種他に比すべきものなし。其中に緑蝴蝶と名るもの名高しとせり。開花の節これを花海と称し、都下名園の第一なりといへり。〇洪雅園 〇勺園 皆名家の別業なり

泉宗廟 丹棱沜の南、萬泉荘にあり。乾隆三十二年に建。正殿には龍王の像を拱し、殿の後に極光閣あり。上に真武を祀り、下に龍王龍母の像を拱す。乾隆帝御書の額并に御製の詩又碑あり。〇永寧寺 〇聖化寺 皆暢春園の近きにあり。皆康熙乾隆両帝の御書額あり。永寧寺後殿には十六羅漢を祀る。〇永通寺 南海淀にあり 〇龍翔寺 馬家荘にあり 〇覺生寺 曽家荘にあり。皆康熙雍正乾隆乃皇帝御書額あり。〇西花園 暢春園の西にあり。園中正殿・後殿・虎城・馬廐・閲武楼等あり。其外に重殿・坊舎多し。ここへも皆を略す。園中に蓮池あり。池の上に四面の殿あり。皇子の居所なり。

圓明園 暢春園を去る一里許、掛甲屯の北にあり。雍正の帝いまだ皇子にてましし時の賜園なり。園の名は康熙帝の宸翰。雍正帝の圓明園の記、乾隆帝圓明園の後記あり。倶に石に勒す。園中に門十八、閘三あり。殿宇・堂室は稲麻のごとく、悉く記しがたし。大宮門の前、輦道の東西皆湖水にして、これを前湖と称す。凡園の中に四十景あり。皆御製の小序并に詩あり。四十景此に目を挙て、去地の光気と殿宇の勢ここに光を顕す。〇正大光明 〇勤政親賢 〇九州清晏 〇鏤月開雲 〇天然圖畫 〇碧桐書院 〇慈雲普護 〇上下天光 〇杏花春館 〇坦々蕩々 〇茹古涵今 〇長春仙館 〇萬方安和 〇武陵春色 〇山高水長 〇月地雲居 〇鴻慈永祜 〇彙芳書院 〇日天琳宇 〇澹泊寧静 〇映水蘭香 〇水木明瑟 〇濂溪樂處 〇多稼如雲 〇魚躍鳶飛 〇北遠山村 〇西峯秀色 〇四宜書屋 〇方壺勝景 〇澡身浴德 〇平湖秋月 〇蓬島瑤臺 〇接秀山房 〇別有洞天 〇夾鏡鳴琴 〇涵虚朗鑑 〇廓然大公 〇坐石臨流 〇曲院風荷 〇洞天深處 〇以上圓明園の四十景と称す

御製正大光明殿詩

勝地同靈囿遺規繼暢春當年成不日奕代永居
宸義府庭羅璧恩波水瀉銀草青思示儉山靜
體依仁只可方衢室何須道玉津經營懲峻宇出
入引賢臣洞達心常豁清涼境絕塵常移雲館
蹕未費地官緡生意榮芳樹天機躍錦鱗宣堂
彌歷念俯仰惕心頻

米菴河三亥書 [印]

## 圓明園

甘霖普降特召大
学士内廷翰林圓
明園泛舟恭紀

甘霖昨豈徧郊畿
詔許新晴覽翠微
萬井膏腴方被沃
一園草木已含暉
渡隨柳放初生縠
涼沁荷香暗襲衣
幸奉長游聽璽藻
疇咨念々切民依

右徐本作

長春園

長春園 舊圓明園の東傍の隙地にして、水磨村と呼し所なり。圓明園中の長春仙館に近きによりて、改め命けて長春園といふ。園中諸水を引て七ツの扉を繞りて稲田にそそぐ。正殿を澹懐堂といひ、後は衆樂亭。其後なる河の北に敞宇あり。雲容水態といふ。南に長橋を架し、西に含經堂あり。後は淳化軒といふ。其東西の廡に淳化閣帖の石刻を嵌る。其後を藴眞齋といふ。○園中堂宇の繁しき此に略す。舊園は即長春園の正殿の西にあり。○舊園の八景あり。○朗潤齋○湛景樓○菱香沜○青蓮朶○標勝亭○別有天○韻天琴○茶苑藏○丛なり又獅子林○虹橋○假山○納景堂○清閟閣○藤架○磴道○占峯亭○これを獅子林の八景と稱る。

如園 澹園の西南にあり。此より堂號ならびに略す。 ○圓明園等續署 掛甲屯の西湖に在り

昆明湖 京城の西北玉泉山の麓にあり。 玉泉、龍泉、其餘の諸泉集り落て、湖水となれり。所謂燕京の西湖これなり。甕山、玉泉山を西北の涯とし、其繞十里許。荷、蒲、菱、芡繁く生ひ、鳬、雁、鷺、鷗浮ひ遊ぶ。小舟に棹さしては涼を迎へ、白雪を踏では詩を吟ず。春は西山に桃李を愛で、秋風の蘆花を翫ぶを、東涯の名所とせり。乾隆癸亥の年、命して湖水の底を深くし、岸を開きて其周凡十里に及べし。且西山の泉派を摂り、地勢によりて順導して湖中に流注せり。御湖名を昆明と錫ふ。堤上に廓如亭あり。亭の北に昆侖石あり。御製の詩を勒せり。側に銅を範にして牛を造り、其背の上に御製金牛の銘を鐫り。其外萬壽山昆明湖の記などを石に勒す。名乾隆帝の御製なり。湖源を導きて一寺とす。

圓靜寺と名く。是は因勝甚寶し、右は湖水湖源より是より三里功徳寺あり。浩波其北に衍て、幽林其南に茂る。叢篁のさかりにはじめて彼の達る此所に至る。泉山下に落ては之を歎き、珠を飛ぶ。湖の上の亭あり。宣宗皇帝巡幸の時、碑を建て後人の示とせし。又一里に華嚴寺あり。寺内に三の洞あり。南なるを呂公洞といふ。其の窈窕きはめて深く、ふかく暗し。右を探る時は即ち所あり。其の底を極むる者なし。

功徳寺は元代大慶天護聖寺と名く。天歷二年、板菴禪師創建せり。明代名を功徳と改む。規製きはめて鉅麗なり。乾隆の間重修ありて、御書額、御製の碑を錫ふ。板菴禪師木毬あり。銕板て周と辨じていふ。毬の大さ斗のごとし。殿の高きにとどまりて、人の達る時は地上に躍りて叩首の禮をなすに似たり。或は王候の門に入或は村里の屋に到り、食誠を募て以て此大刹を建立せりといへり。其毬今尚寺に存すといふ。查嗣瑮雜咏 詩

刻縁秘像錐金柱 虎口開時古殿崩 事去木毬猶首懶 更誰知余救殘僧

甕山 京城の西三十里玉泉の北、西湖を前にし金山を後にし。乾隆十六年名を萬壽山と錫ふ。山の南に岩ましく洞

昆明湖
珠林翠閣倚長湖
倒映西山入画圖
若得輕舟泛明月
風流還似剡溪無
右明馬汝驥西湖詩
萬樹垂楊掃緑苔
桃花深映槿籬開
遊人盡說西堤好
須及清明上巳来
右王士禎西堤詩
鳴門書

の記ろく若あり。一樵人あり。曰く。是が蘭仙室なりと。此邊の人家。皆播擇。瓣科を垣の如く備へ。其地景。江南の風色と相似たり。むかし一老父あり。此山上の石の羅漢を擬へ。すこぶる華麗の彫刻あり。中には物の數千種あり。老夫つねに玩ひて甚しく。中の物を悉く愛して。其石羅漢を山の西邊に藏めて。こゝに藏をとゞめて曰く。石羅漢從含貝帝罡と嘉靖の末に。此石羅漢より又何國へ行しや。在不を知るもしらず。是より明の物力漸に耗尽るといへり。朱彝尊甕山詩。石甕久

已徙。青山仍舊名。去都

無一舍。已覺旅塵清。

清漪園 萬壽山の麓。圓明園の西二里計にあり。昆明湖に臨みて東に向ふ。宮門あり。前に溪河あり。石梁三を跨ぐ。左右に宮門あり。即苑園といふ。宮門の内を。勤政殿といふ。御製の坐右銘。萬壽山昆明湖の記あり。殿の後は怡春堂に連し。西を玉蘭堂といふ。北を宜春館といふ。其西に樂壽堂あり。堂の後折て西の方の池に。池の北を樂安和といふ。西の長廊ありて石丈亭に達く。西北に養雲軒。寮食あり亭あり。後は石舫ありて慈壽堂大觀の匾と稱す。乾隆帝の御書なり。此石舫より…されと黙さ。樂壽堂の前に一の大石あり。青芝岫の三字を鐫。乾隆帝の御題なり。又怡春堂の後樾閣より北の方に惠山園あり。載時堂○墨妙軒○就雲樓○澹碧齋○水樂亭○知魚橋○尋詩徑○涵光洞○以上惠山園中の八景と稱ふ。其外堂殿甚多し。これをつやくくく。惠山園の西を雲繪軒といふ。東を迎旭軒といふ。後は隆安室といふ。多く寶珠瑠璃あり。これ御製の頌と碑に勒を。

大報恩延壽寺 甕山にあり。即園の東なり。乾隆十五年。命して門殿五層を建させ。皆御書の額。御製の詩碑あり。西に羅漢堂あり。杭州の淨慈寺にある所の羅漢の式に倣て建させ。内に甲乙の十道を分け。阿羅五百尊が塑像せり。皆御書の額など懸たり。

元耶律楚材之墓 甕山の南の林藪數百武。好山園のひがしにあり。乾隆十五年。命して祠宇を建させ。御製の詩碑を揚ふ。墓の前の祠に廢ほろびて既に久し。中に像へし石數多く。其廢敗し唯石塊の碑一あり。ていまだ側おん明の天啓七年。其の處牧の塋あり。まつてその石人の首に類し。

畫眉山 甕山の側金山にり。谿を隔て。綠泉樹にあり。泰州黛の後にあり。老さる石皆黛く。檗に藏あり。宮人これを汲し石なり。眉をまゆ。故に畫眉の名あり。

龍神廟 玉泉の西北三十里。金山の西。畫眉山の黒龍潭にあり。此に雨澤を祷る。甚靈應あり。雍正帝。御製の碑。乾隆帝。御製の詩あり。名石に勒せり。正殿 三間。東に向ふ。宗堂。朱闌。之殿の左に棟。御碑亭の前。前に廟門あり。牌坊。方を牌坊と云門とて正殿まで。左右に碑亭也。

亭 廟門の外にあり。前は水山

龍潭 御碑亭の東北にあり。水は池より出て。繞て潭にそゝぐ。

迴廊 三十三間。其外を大門とし。正殿まで九層。磴道は百級あり。御碑亭正殿。廟門牌坊は。第一く黄琉璃瓦を覆ひ。餘はみな麗瓦なり。門樓は丹雘。深林は叢柳。蔚然雅不落廟外の右也。

玉泉山 甕山の西にあり。龍橋あり。その麓に秀橋の西にあり。金の章宗帝の行宮芙蓉殿の故址は。此山腰にあり。元明以來遊幸の所となせり。康熙の間修葺せられて。即聖祖皇帝。静明園と名け給ふ。玉泉山は。其泉の清きに寄て。是を名け。又山の東北石罅の間より。

萬壽山
清漪園

玉泉涌出其石頭を鑿て螭の頭となし。泉は此螭口より噴出せり。其鳴こと佩玉のごとく。其色は素練のごとし。味は極て甘し。瀦て池となし廣さ二三丈許。泉に小石橋を跨し。水橋下を東に流れ昆明湖に入。相傳ふ金の章宗。嘗て暑を此に避く。燕京八景の一なりとて名けて玉泉乃垂虹といふ。乾隆帝御書乃玉泉趵突の匾を掲付らる。玉泉山の土級或は起り或は陥り蒼龍の鱗のごとし。沙痕石隙随地に溢へて泉を出す。山の南に巨泉あり。涌泉數ふるに源を滲くと多あり。あるひは是を噴雪泉と名く。

游玉泉　王惲

峯頭乱石闘崖牙
水底浮光浸碧霞
絶似蘸門山下路
惜無修竹與梅花

七十七翁林鹿共谷本脩

黒龍潭龍神廟

東

龍王廟 玉泉山の麓にあり 廟は泉上の澤池によまり。池の廣さ數丈湧泉數あり帛を裂がごとし故に名けて裂帛湖といふ山の青石間に迸るが或は雪の飛がごとく或は珠を擲くに似たり。翁輸にげく渡上に覆ひ幽秀たる風色筆端の及ぶ處にあらず。廟の正殿三間左右四ツ芙蓉橋の所に坊あり門あり丹臒様深 左右に御書の碑あり漣漪[illegible]

裂帛湖

王士禎

裂帛湖光碧玉環人家終日映漣漪分明一幅蔡侯紙寫出湖南千萬山

河世寧





靜明園 玉泉山のふもとにあり 即苑囿の一なり 康熙十九年に建て澄心園と名く三十一年今の名に改む康熙雍正の間にも此に閲武の式を行ひ給ふ今は其事なし靜明園十六景あり第一を廓然大公といふ 園の正殿なり 宮門の南に向ふ 第二芙蓉晴照 廓然大公の後湖の中にあり 第三玉泉趵突 既にいふ玉泉の條下に見る御製 玉泉山天下第一泉の記あり 第四竹罏山房 龍王廟の南にあり後に觀音閣あり其南は眞武廟呂祖洞雙關帝廟あり 第五聖因綜繪 關帝廟の南にあり西は華嚴海の境なり 第六繡壁詩態 聖因綜繪の西にあり 第七溪田課耕 繡壁詩態の西にあり東に仁育宮あり東岳天齊大生仁聖帝の像を據れ 第八清涼禪窟 溪田課耕の北にあり西の方れ西園よいうれ 第九采香雲徑 清涼禪窟の北にあり又招鶴庭といふ 第十峽雪琴音 招鶴庭の南にあり 第十一玉峯塔影 峽雪琴音の道南にあり後に高峯あり山の勢高峯といふ山の禁林を含經堂といふ書画舫は溪に臨めり 第十二風篁清聽 含經堂の南の樓なり此より近き閣飛雲眼述緑蘊 第十三鏡影涵虛 風篁清聽の西にあり南に含暉堂虛舂樹あり 第十四裂帛湖光 溪葉の東にあり山の禁林を跨き雲深處といふ東に心遠閣あり其北に羅漢洞華嚴寺あり 第十五雲外鐘聲 華嚴寺の後にあり東北に伏魔洞あり 第十六翠雲嘉蔭 翠雲深處の南にあり 東は小南門南は東宮門あり又南宮門の西南影湖樓あり小東門外の長堤に石橋あり上に三の坊を其東は界湖橋北は玉龍橋清漪園に行の翠道あり

靜明園

呂公洞（玉泉の西二里、觀音寺にあり。）門に入れバやがて洞あり。廣さ深さ倶に二丈ばかり、又觀音洞とも云。又むかし呂僊の憩し處なりとて、洞の名とし、（岩下に潭あり、廣さ丈余、山上には看花臺・蒼霞樓あり。）

上華嚴寺　下華嚴寺（倶に巖に倚て羅漢洞の下にあり。）明の英宗帝の勅額あり。二洞あり。一ハ山の腰にあり、一ハ殿の後にあり。七真洞といひ、或ハ翠華洞とも云。洞の中、石壁には元の耶律丞相の詞、明の大學士夏言が和韻を鐫つけたり。

耶律楚材鷓鴣天詞

花界傾頽事已遷浩歌遥望意茫然江山王氣空千劫桃李春風又一年横翠
嶂架寒烟野花平碧怨啼鵑不知何限人間夢併觸沈思到酒邊

夏言和韻

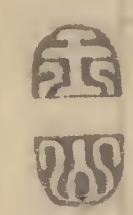
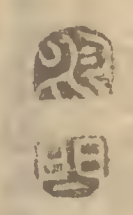
人世滄桑有変遷靈岩玉洞自歸然朝衣幾共游山日佛界仍存刻石年嗟歳
月惜風々烟等閑花發又啼鵑只将彩筆題僧壁玉帶長留向日邊

西山（府の西三十里にあり。太行の首也。）山中数の蘭若ありて、白塔数十ハ山隈の青靄と相映じ、流泉又多く、或ハ荒池に注ぎ、あるひハ叢逕に伏し、或ハ塵沙の間に散漫せり。春夏の附ハ晴雲・碧樹・花香・鳥聲・相てもぐし、秋の亂葉ハさるながら丹錦を飄すに似たり。冬ハ大雪の初て霽る、千峯・萬壑・瓊を積・華を瀲し、風光ますます畫なをながし。京師八景の一として、西山霽雪の名あり。

## 西山霽雪（せいざんせいせつ）

山瀉漫池勝
披圖
按水經洞名
疑小
有泉品類中
冷縹
緲朝烟白徹
蒞晩
岫青涓々涌
太液
終古赴滄溟
呉晟
西山詩

西山道中　宋玉

鶯花三月滿春畦吉子開殘菜葉
肥廢寺尋來碑作仆斷橋行處柳成
圍抽芒小麦翻新浪掠水輕鷗過闊來
右望西山諸峰圖畫好吟鞭早晝
謝塵鞿

東都行人朱興文書



沙羅樹寫真

娑羅樹恭依皇祖元韻
樹聞如意隨求得梵典曾標鹿苑植
層々幢節古佛前碧眼番僧來尚識
東土西天豈定形飛來靈鷲千雲青
安知此樹不憶石因風作語猶冷々
七葉蘢葱湘盖偃縱移根越千年遠
益部楚州疑附會那覩月木依雲巘
如桐如栝影團團雪覆霜凝翠蔚盤
不殊調御丈夫倚曾沐曼殊師利看

乾隆帝御製

○中営遊撃署○静宜園子總署○普陀山（俱に四王府にあり）

荷葉山（玉泉山の西南平壌にあり）岡阜隠起して其形荷葉のごとし。俗以て名とす。

十方普覺寺（俗卧佛寺と称す。唐代の故刹なり）後殿の内に銅像の卧佛一尊あり。（明の憲宗帝の時に造り）又小殿の内には香檀木の卧佛あり。（唐の貞観年中に造る所なりと今に至るまで存す）雍正帝御製の碑、乾隆帝御書の扁額あり。殿の前に娑羅樹二株あり。此寺創建の時西域より移し来り植る所なりと。今本の太さ三圍許あり。（娑羅は外国の交譲木なり。葉は掌に似て、枝は三蘭のごとし。花は白うして茎に仏法の如き金色の鈴あり。鳥も其枝に棲む悪虫を生ぜず。其花苞の如く拳のごとし。花の形桐の花のごとし。一簇に二十余の花をつく。秋月を経て花謝し、実長くこれを食へば気をくだし心の疾えを療すといふ）

觀音堂（卧佛寺の西にあり）石盤あり。廣さ数丈、高さ三丈ばかりなるべし。石磴あつて堂外より登る。石盤上の四周に闌ありてこれを循り、下に小竇あり。泉涌出。其奴淙々琤々として、これを世に玲瓏とす。○隆教寺○五華寺○廣泉寺○圓通寺○吉和菴（俱に観音堂の西二三里にあり）

（○此處水源洞と称し、両山相挾みて小径線をつらぬるがごとし。其中に泉の涌出るものもあり。水流を挟て数里に入れば石洞あり。其前に山石を鑿て龍の首を造り、其口より泉を出し、それより数十歩に突兀たる土臺あり。石欄を其臺下に環繞しむ。相伝ふ金の章宗帝の八院の一にて清水院と号す。其故址なりと。此泉の水流して二つとなり、一は地中を伏流して玉泉山にいたりて涌出す。一は山麓に入て流れ洞となり。退谷と名づく。洞の西に長嵐あり。嵐の半に章宗帝の看花臺あり。古松一株生す）

退翁亭（退谷の中にあり）亭の前流水清く觴を浮べつべし。東の嶺に石門あり。其形巋然たり。これを烟霞窟といふ。朱彝尊退谷詩 退翁愛退谷、未老先抽簪。行藥亂峯路、築亭雙樹林。間中春酒榼、静裏山泉音。満目市朝貴、何人期此心。

廣應寺（卧佛寺の西南一里許にあり）寺内に白松あり。其下より望めば碧雲・香山の諸寺眼下にあり。（寺より西を木蘭陀とし、山頂には玉皇廟あり。側に満井と称せる清水涌出せり。よく酌て掬とすべし。山中此水を汲で茶を瀹に味極て甘し）

静宜園（香山の前にあり。即苑園の一なり）跳関の内東西に坊あり。中に石橋を架し、其河を月河といふ。橋を渡るが宮門あり。内に勤政殿あり。南は麗瞩殿、後に致遠齋、横雲館あり。西は韻琴齋・聴雪軒、東の樓を正直和平といふ。（静宜園に二十八景あり。勤政殿も其一なり○麗瞩樓○緑雲舫○）

## 静宜園

勤政殿 有引畧之 乾隆帝
悦心期有養好樂励無荒
漫擬靈秘囿偏宜山号香
問農頻駐驆咨采喜同堂
家法傳勤政孜々敢暫忘

盧朗砌。又掌石堂あり。爰に御製二十八景乃詩を鐫す。○瓔珞岩。○翠微亭。○青未了。○馴鹿坡
○蟾蜍峯。一名眠獏石。○棲雲楼。○知楽濠。○香山寺。○聴法松。○来青軒。○唳霜皋。○香嵒室。○霞標
磴。○玉乳泉。○絢秋林。○雨香館。○暎陽阿。○芙蓉坪。○香霧窟。小の岩間に。御書西山晴雪の石碑あり。○
栖月崖。○重翠崦。○玉華岫。其西には峯石遊し上に御題の森石筍の字を勒せり。○隔雲鐘。以上凡二十八
景其内に奉て堂。乾隆三十六年。皇太后八旬萬寿の節には。三班の九老と。此香
殿の之石に之れと器ぐ。山に宴を賜ひ。次の日。畫工丈路叢に命して九老を繪しめ給ふ。九老の図田あり。委く宸翰題詠に見ゆ。

## 碧雲寺

香山にあり。洪光寺の東方なり。寺に於け松杉の繁茂る中を行く事二里ばかり。磴径より入れば一の牌
横たはれり。刻石梁を度れば碧雲寺なり。其壮麗言語に絶えり。石磴数百級を登りて佛殿に
いたれり。殿の前には石欄秋欄ありて池となし。泉を引き一丈ばかり噴て卓錫泉と名く。寺に柳樹あり。此頭の藤枝
て大なれば皆人これを藤柳と呼ぶ。其先に三楹の堂あり。萬暦帝御題の水天一色の額あり。爰に荷沼あり。
南に竹林あり。山岩下の亭を嘯雲亭といふ。是より廊廡を
繞りめぐりて佛殿に出る。殿の池には金鯽数多を畜ふ。元の耶律楚材の裔阿利吉といふ
者宅地を捨て建る所なり。明代内監于經魏忠賢が後修造を加へて
大霸を恣ふ。清朝乾隆の間に羅漢堂藏經閣を建。御書乃額并に御
製の碑を賜ふ。此所代々天子の遊幸ましく。憩息の所なれば扁額は
皆御書御題を掲げたり。

## 香山寺

静宜園二十八景の一にして瓔珞岩の西にあり。遼の中丞阿利吉宅を捨て建る所なり。金の大定二十六年。
世宗此に幸し。殿を大永安寺と賜ふ。殿前に二の碑あり。阿利吉が宅を捨し始末
を記せり。其碑石光潤にして玉のごとく、蔵白く。世宗の幸あり。寺僧因て撫て帆石となり。或は云此寺金の章宗の會景楼なりと。殿は五重斜廊平欄たとくある小軒閣とれて及
西山一帯香山獨有翠色の句は。金の世宗乃詠なり。又明の神宗軒を額
て來青軒と云。山中殊に名蹟多し。一に甘露寺とも称す。寺内に方池ある石梁を跨ぐ。明乃正
統年間命して金安数十頃と接ぐ。今跡に尺に盈て。又金
剛殿あり。其後に古椿樹六株あり。又画廊より慈恩殿に登る。右は香爐岡下に蟾蜍石あり。石下に泉二あり。深さ
三尺ばかりにして濯ふべし。香爐岡附として雲霧を噓く故に名く。又蓊感泉あり。金の章宗嘗て此に寓して。箭を
矢を發て泉の涌を見る。望朝其地を穿せ給ふに果して泉を得たり。
後に寺僧其泉を流しとりいて先を深くし。遂に泉涸て水竭たりといふ。

宿香山寺　宋琬

黛色西山好　年年馬上看
茱萸逢九日　襆被宿層巒
拄杖極松瞑　吹笙殿閣寒
五陵回首處　霜葉夕楓丹

峯堂滕博書

碧雲寺

入寺聞山雨群峰方夕陽
流泉自成響林壑坐生涼
竹覆春前雪花寒劫外香
湯休何處是空望碧雲長

王士禎

**洪光寺** 西山の麓より登るに石磴九曲九十八盤にして磴毎に松柏生ひ繁り。頂にあり左右屏幛を立つるがごとし。縫頂纔門石を以て構へ其間に坐して望見れば山中の勝景一覧して盡きべし。十八盤と云は寺門あり。寺内閣殿に帯台宝座に坐し。其巧妙なり。洪光寺と静宜園二十八景の内に香嵒室と云。

十八盤を今霞標磴と云。俗に景中のひろむ(?)あり。

**玉華寺** 洪光寺の東にあり。静宜園二十八景の一玉華岫是なり。○**宗鏡大昭之廟** 静宜園の北にあり。俗に棲息の所とし。

香山の南静宜園の西に萬安山あり。山に法海寺法華寺あり至て秘蔵なり。元代の弘教寺の遺址なりと云。其むかし景云祠ありて其中に三官五帝三王の石像あり。左に周召孔孟の諸聖賢右に周程張朱の諸大儒の像あり。又五の石龕あり。経書を彫み上に其経の名を標題せり。門殿像合龍悉石を以て作り又殿外に石亭あり内ある碑に韓蘇の祠碑鐘(?)衆の篆ひを刻み経を治る者にたより左右は龍馬あり五十五の毛旋具ふる河圖のごとし。右は雛亀あり其亀甲に十文を備へ雒書のごとし。又東に三楹の堂あり。右の法は龍逢より以下孝子は曾閔より以下の像を圖し左に其行事を書記し以て観る者に告げ知らしむ。其石殿中の石像は皆渾朴にして漢より以後のものにあらず。西域などの像法にも似ず其氣象の高雅なる実に古物なり。法堂の後には石洞あり洞壁には先儒の格言及び道を詠ずる詩詞を彫りて此景云祠康熙中まで尚存せり今其石室の殿祠倶に廢して讀なし。何者のしわざか毀るといふ事を知らずと云。

**寶相寺** 廣武縣の西南に梵香寺あり其西は長齢寺。又其西南に宝諦寺ありその西にあり。**乾隆二十七年勅して建。御書の額。**

御製の碑二あり。左の碑には乾隆帝御寫の文殊の像並に讃を鐫付す。

**中峯** 香山の後にありて西山諸峯の中にあり。高く半山に出。圖牆十里悉白石を以て砌に累ぬ。左に中峯の名あり内に中峯菴あり。石楼あり。眺つべし亭あり。中峯は即萬安山なりと。○朱國祚中峯晩望詩。中宮丙舎即花宮。松柏林前梵磬風。試上精廬高處望。樓臺金碧夕陽中。

**翠岩寺** 中峯の隆にあり **畝宇境内廣からずといへども山林の風致備はり清泉の茗を煮べし。**

**香子口** 中峯の下南の方龍泉禅林をへだてて勝公寺あり。其大道に備へて南牧里萬佛閣と此を見れば即香子口なり。路の旁の古樹皆老幹百余年の物なり。

**静宜園把總署** 静宜園の東南二里許に門殿あり其東に小毛村にあり。

**盧師山** 府の西三十里にあり **隋の時に一沙門あり。盧師と稱し此山に居て大青小青と云二龍を馴伏し此時より盧師山の名あり。山中に盧師寺あり寺を去て一里許に秘魔崖あり。師の晏座せし處なりと云。**隋の仁寿中盧師此崖上に居て数歳時に童子二人ありて来りて師に随ひ日く我は大青小青といへる者なり。願くは師に仕ん時に旱する事数月二童子即師に乞て雨を祈れば驗あり二童は龍なる事を明にし今其崖の下に二童子盧師に侍したる像を塑せり。又崖上には一の楯と石面に生じ長一丈計。相傳へて盧師の手づから植る所と。

## 盧師山（ろしさん）

盧師夙昔經行地
惆悵蒼崖古木風
最憶深秋飛瀑下
四山寒葉乱流中
王士禎





秘魔崖

平坡山（盧師山とも號す）山の半腹に平地あり。故に名く。又翠微山と号く。明の憲宗帝の築く處なり。此山嶺高しといへども其険しきを覚へず。山嶺に香界寺あり。（康熙乾隆御書の額、御製の碑あり。）後に天寧寺あり。（門前に金剛神あり。其面黒し。憲宗帝是を見て曰く、火裡の金剛なりと。一夕火起て金剛を燬ず。）

嘉禧寺（香山の口より小橋を度て西にあり）寺門の前一里許、径の左右松檜繁茂り。門内には又楡柳重々として此勝地より月影なし。山門方丈壮麗なる事云ふべからず。

馬鞍山（房山縣の北六十里にあり。山の形馬の鞍に似たり、依て号す。）山中に萬壽寺あり。唐の武徳年中に建。康熙乾隆両朝の御書の額あり。（獅子岩とよぶもの十八枚ほど。戒壇あり。遼の咸雍年間僧法均の建る所なり。壇上に殿あり。内白石を以て三級に作り、遼に戒神を刻む。壇の南には波離殿あり。前に波離尊者の形容を識し、遼金の碑各一あり。後に吉祥洞、観音洞、化陽洞、龍洞、孫臏洞あり。西に極楽峯あり。戒壇より小さき石の山洞をへて泉あり。甚清し。）

仰山（府の西七十里にあり）峯巒拱秀、中に平頂の蓮華心のごとくなるものあり。東方に独秀峯、翠微峯、紫蓋峯、妙高峯、紫微峯あり。中に禅刹多し。（嶺上に棲隠禅寺あり。金の大定の間に建。第松老人を請て此に住持せしむ。○金章宗遊幸有詩刻石。金色界中兜率景、碧蓮花裏梵王宮、鶴驚清露三更月、虎嘯疎林萬壑風。）

滴水巌（仰山村の西にあり）黄牛岡口より登るに其径最険し。萬丈渓を左にし、千仭壁を右になし、山路の断たる處は木を以て棧とし、張公洞と云て石垣あり。堊屋にして丹着これを滴水巌といふ。

岫雲寺（京城の西北九十里、羅睺嶺にあり）舊名潭柘寺。燕人の諺に云く、先に潭柘ありて後に幽州ありと。此寺の古きを知るべし。康熙の間今の寺号を賜ふ。（康熙乾隆の二帝御書の額、御製の詩碑并に御書の心経及び心経塔の図あり。）寺内に倚松斎、延清閣、猗玕亭、古石堂あり。皆縁撃憩息の所とぞ。（嶺の西に叢棘の中に一筋の道あり。凡そ二八里許なるべし。古柘絶壁の上より霞ひて天を仰ぐに唯線のごとし。山勢磅礴て中に三峯連擁す。傍に二の潭あり。潭上に古柘樹一株あり。形曲りて蛇のごとく、高さ八九尺。今枯木となれども尚亭を建て是を覆へり。其潭上に柘樹あるを以て山の名を潭柘山といへり。寺も潭柘寺と号す。又東に九峯環り抱へ、南の方潭水出づ。唐の時華厳師此山に居て法を説。山中に潭あり。内に龍神住り。龍神其潭を布施して寺を建んとて、一夕疾風雷電せしが、彼潭忽ち涸て平地となれり。龍神去て生を有しはじむといへども、其内に尚存せり。青色にして長さ五尺許、大さ盤のごとし。時々出現ることあり。）

百花山（府の西百二十里にあり）此山花卉多し。因て名とし、天花とも名る者あり。花色嬌艶にし

湯泉（たうせん）一号十八盤山

筆架峯

北湖

温泉

合抱河



香山十八盤
盤々種松栢
惟見獨行僧
稀逢采樵客
朱彝尊

南湖

てむ愛すべし。天華、蔬と為して食ふべし。康熙の間、山僧此花を朝廷に献る。聖祖皇帝詞臣等に分ち賜ふ。倶に詩ありて其事を記す。山に入て一里許に顕通寺あり。石洞をもつて殿を建つ。文殊の金像あり。三丈なり。文殊法身塔と名く。是より菩薩頂に登る。先百花山の頂なり。

西湖山　府の西一百里にあり　下に渓潭あり。故に名く。

百望山　南は西湖に阻り、北は燕平に通ず。此を去ること百里にして其峯を見る。故に百望山の名あり。山の南に祠あり。高さ五丈ばかり。登りて京師を望むべし。

湯泉　百望山の西北六十里にあり　山径盤屈て嶺に温泉あり。故に十八盤山と称す。温泉は遂の府の温泉といふ。又山頂の南と北に二の湖あり。毎歳春の季夏の首の間、湖の温泉溢流れて河となれり。是を合抱河といふ。西に高く峙てる峯あり。其状筆架のごとし。山上の風景甚くうひ画しがたし。

唐土名勝圖會巻之四終